一般社団法人レーザー学会

学術講演会第４４回年次大会　報告書

会期：２０２４年１月１６日（火）〜１９日（金）

会場：日本科学未来館、プラザ平成

２０２４年３月

第４４回年次大会実行委員

目 次

第Ⅰ章

1. 第44回年次大会概要 ………　３

2. 実行組織

2.1年次大会実行委員会 ………　６

2.2年次大会プログラム委員会 ………　７

3. 大会全体スケジュール ………　８

第Ⅱ章

1. 第44回年次大会開催報告 ……… １０

第Ⅲ章．各委員会からの報告

1. プログラム委員会報告

1.1 講演会概要 ……… １８

1.2 講演件数等 ……… ２３

2. 現地実行委員会報告

2.1 総務係 ……… ２８

2.2 会計係 ……… ４０

2.3 受付係 ……… ４７

2.4 会場係 ……… ５０

2.5 アルバイト係 ……… ５８

2.6 懇親会係 ……… ６４

2.7 広報係 ……… ７０

2.8 展示会係 ……… ７２

2.8 事務局 ……… ７３

第Ⅰ章

1. 第44回年次大会概要
   1. 会期：2024年1月16日（火）～19日（金）
   2. 会場：50周年記念特別講演会，シンポジウム，招待講演，一般講演，ポスター講演：

　 日本科学未来館

　　　　　 〒135-0064 東京都江東区青海２丁目３−６

　　　　　　 アクセス(HP)：https://www.miraikan.jst.go.jp/visit/location-directions/

　　　　　東京国際交流会館プラザ平成

　　　　　 〒135-8625 東京都江東区青海２丁目２−１

　　　　　 　アクセス(HP)：https://www.jasso.go.jp/ryugaku/kyoten/tiec/access.html

懇親会場：

ヒルトン東京お台場　オリオン（1F）

　　　　　 〒135-0091東京都港区台場1-9-1

　　　　　　 アクセス(HP)：https://www.hiltonodaiba.jp/access/

* 1. 主催：　一般社団法人レーザー学会
  2. 大会の概要

下記のとおり，50周年記念特別講演会，50周年記念特別企業ポスターセッション，シンポジウム，招待講演，一般講演およびポスター講演を実施．

* + 1. 50周年記念特別講演会：　1月16日（火）13:00～17:00　５件

「レーザーが拓く未来社会 -レーザー学会の新たな５０年に向けて-」

　東京国際交流会館プラザ平成 国際交流会議場

※オンラインでの参加登録者のみが聴講可能

浅川 智恵子氏　日本科学未来館館長，日本IBMフェロー

講演題目：「科学技術とともに実現するインクルシーブな未来社会にむけて」

梶田 隆章氏　東京大学教授

講演題目：「深宇宙を探るレーザー ～レーザー干渉計型重力波望遠鏡で探る宇宙～」

伊賀 健一氏　東京工業大学栄誉教授，元学長

講演題目：「世界を繋ぐ・観る：面発光レーザーが変える」

天野 浩氏　名古屋大学教授

講演題目：「窒化物系レーザダイオードの研究開発と社会実装への道のり」

武田 俊太郎氏　東京大学准教授

講演題目「光量子コンピュータが拓く未来」

* + 1. 50周年記念特別企業ポスターセッション：　1月16日（火）12:00～12:50　6件

　新たな50年に向けた企業の最新技術或いは人材育成への取り組み紹介するポスター発表．

　東京国際交流会館プラザ平成 ホワイエ

株式会社オキサイド

ウシオ電機株式会社

山本光学株式会社

古河電気工業株式会社

フォトテクニカ株式会社

ギガフォトン株式会社

* + 1. シンポジウム（順不同）：1月17日（水）～19日（金）

１．【応用物理学会フォトニクス分科会ジョイントシンポジウム】フォトニクスが切り拓く光量子技術

２．光無線給電方式が魅せる次の世界 ～IoT，モビリティ，長距離，特異環境への応用と基盤技術～　　　＜協賛＞光無線給電検討会

３．カオスとドレスト光子で拓く複雑系超越性の光科学～無用の用から唯一無二を創る～　＜協賛＞日本応用数理学会

４．光の時空間構造がもたらす新展開

５．ポスト次世代レーザーを夢想する

６．超高強度レーザーとデータサイエンスが拓く実験室宇宙物理

７．イノベイティブなレーザー加工技術の社会実装

８．ライダーによる環境計測の最新動向　＜協賛＞レーザセンシング学会

９．100GHz超級次世代光変調素子の最前線

１０．光ソリトン通信50周年記念シンポジウム ファイバ非線形性への挑戦 ～光ソリトン伝送からGNモデルまで～　＜協賛＞電子情報通信学会　光通信システム研究会

１１．ニューロフォトニクス最前線

１２．（ジョイントセッション）

１３．ノーベル物理学賞記念シンポジウム：アト秒科学の発展と展望

* + 1. ジョイントセッション：日本光学会・レーザー学会ジョイントセッション： "ホットトピックス"
    2. 招待講演： 講演時間　１件25分，質疑討論5分 （1月17日（水）～19日（金））
    3. 一般講演： 講演時間　１件12分，質疑討論3分 （1月17日（水）～19日（金））
    4. ポスター講演 ： 1月18日（木）・19日（金）12:00～13:30
    5. 懇親会： 1月18日（木）18:00〜　（有料）
    6. 併設展示会： 「Laser Solution 2023」 （1月17日（水）～19日（金））：入場無料
    7. 参 加 費：　大会参加費（消費税込み．予稿集を含む．）

　　　　　　　正会員・賛助会員：事前登録14,000円（通常18,000円）

　　　　　 　 　/学生：事前登録4,000円（通常6,000円）

　　　　　　　非会員：事前登録20,000円（通常24,000円）

　　　　　　 　/学生：事前登録6,000円（通常8,000円）

　 懇親会参加費（消費税込み．大会参加費とは別．）

　　　　　　　一般：事前登録7,000円（当日9,000円）

/学生：事前登録3,000円（当日4,000円）

* 1. 講演募集要領
     1. 申込要領

申込みはWebを利用．一般講演・ポスター発表申込者はレーザー学会正会員，学生会員，賛助会員に限る．発表予定者で非会員の方は，入会手続き後にお申込みいただく．

（入会手続きは学会ホームページにて：URL:https://www.lsj.or.jp/membership/）

※今回は学生会員以外の会員（正会員，賛助会員）もポスター発表が可能．

申込について：2023年8月18(金)より申込み受付．

* + 1. 申込・予稿原稿締切

申込期限　　2023年 9月22日（金）→　 9月27日（金）に延長

予稿原稿提出期限　　2023年10月19日（木）

* + 1. 一般講演、ポスター講演の表彰

「論文発表賞」規程に基づき，本大会で発表されました一般講演のうち，優秀な講演を行った若手会員に対し「論文発表賞(優秀論文発表賞，論文発表奨励賞)」を贈呈．

授賞対象者： レーザー学会学術講演会第44回年次大会において，レーザー科学の発展に貢献しうる優秀な一般講演を行った本会会員（賛助会員，正会員，学生会員）であり， かつ本優秀論文発表賞をまだ受賞していない者であって，以下の資格を有する者．

　(1)発表年月日以降の4月1日時点で満36歳以下の者．

　(2)登録された登壇者であり，かつ実際に登壇した者．

　(3)講演申込時に論文発表賞を申請した者．ただし，１人１件とする．

　(4)授賞時（レーザー学会定時総会）に会員資格を有する者．

申込方法： Webによる講演申込みフォーマットにより講演申込み時に申込み．

授賞：レーザー学会定時総会（2024年5月末頃開催予定）で賞状を贈呈．

応募期限：2023年9月22日（金）→9月29日（金）に延長

本大会で発表されましたポスター発表のうち，①発表内容，②ポスターの見栄え，③プレゼンテーション，④質疑応答の4つの項目に対して優秀な発表を行った学生会員に対し，「優秀ポスター発表賞」を贈呈．

授賞対象者： レーザー学会学術講演会第44回年次大会において，講演申し込み時に，優秀ポスター発表賞を申請した学生会員．

申込方法：Webによる講演申込みフォーマットにより講演申込み時に申込み．

授 賞： 2024年1月18日(木)18:00からの懇親会で表彰（賞状を贈呈）．

* + 1. 問い合わせ先

〒565-0871　大阪府吹田市山田丘2-6　一般社団法人レーザー学会

第44回年次大会実行委員会事務局

（TEL：06-6878-3070 FAX：06-6878-3088　 Email: [lsj-admin@lsj.or.jp](mailto:lsj-admin@lsj.or.jp)）

1. 実行組織
   1. 年次大会実行委員会

実行委員会委員長（兼 募金委員長） 奈良崎　愛子　産業技術総合研究所

同　副委員長 宮地　悟代 東京農工大学

同　副委員長 伊澤　淳 株式会社ＩＨＩ

同　委員長補佐 山口　滋 東海大学

同　顧問 西澤　典彦 名古屋大学

プログラム委員長 寺川　光洋 慶應義塾大学

同　副委員長　江川　麻里子　株式会社資生堂

同　幹事　　鈴木　敬和 株式会社資生堂

担当理事/展示会実行委員長 山本　和久 大阪大学

展示会事務局長 大澤　哲夫 (株)オプトロニクス社

同　委員 三島　滋弘 (株)オプトロニクス社

同　顧問 上野　直樹 (株)オプトロニクス社

現地実行委員会：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 総務係  会計係  受付係  会場係 | 主査　佐藤正健（産総研）  副査　石川善恵（産総研）  委員　小西邦昭（東京大）  委員　藏田真太郎（IHI）  主査　市川典男  （浜松ホトニクス）  副査　欠端雅之（産総研）  委員　瀧口 優  （浜松ホトニクス）  主査　湯本正樹（産総研）  副査　村上武晴（理研）  委員　相川 脩（東京大）  主査 橋田昌樹  （東海大/京都大）  副査　大久保友雅（東京工科大）  委員　熊谷幸汰（宇都宮大） | アルバイト  係  懇親会係  広報係  50周年記念  特別講演会係 | 主査 田邉孝純（慶應義塾大）  副査 高山佳久（東海大）  委員 中嶋善晶（東邦大）  主査 立崎武弘（東海大）  副査 鄭 和翊（東海大）  委員 藤川知栄美（東海大）    主査　溝尻瑞枝（長岡技術科学大）  副査　吉田 剛（防衛大）  委員　吉﨑れいな（東京大）  主査　山本和久（大阪大）  副査　杉浦博明（三菱電機）  委員　津山美穂（近畿大）  委員　藤本 靖（千葉工業大）  委員　小島邦子（三菱電機）  委員　時田茂樹（京都大） |

* 1. 年次大会プログラム委員会

|  |  |
| --- | --- |
| Ａ．レーザー 主査　宮本克彦（千葉大学)  物理・化学 副査　森田隆二（北海道大学）  委員　片山郁文（横浜国立大学）  委員　大野誠吾（東北大学）  委員　神田夏輝（理化学研究所）  委員　河田陽一  （浜松ホトニクス株式会社）    Ｂ．レーザー 主査　戸倉川正樹（電気通信大学）  装置 副査　藤本　靖（千葉工業大学）  委員　廣澤賢一（三菱電機(株)）  委員　吉井一倫（徳島大学）  委員　谷峻太郎（東京大学）  委員　上原日和  （自然科学研究機構）  Ｃ．高強度・ 主査　板谷治郎（東京大学）  高エネルギー 副査　福田祐仁  レーザー応用　　（量子科学技術研究開発機構）  委員　米田仁紀（電気通信大学）  委員　鍋川康夫（理化学研究所）  委員　坂和洋一（大阪大学）    Ｄ．レーザー 主査　花田修賢 (弘前大)  プロセシング 副査　溝尻瑞枝（長岡技術科学大）  委員　長谷川智士（宇都宮大）  委員　下間靖彦（京都大）  委員　吉田 剛（防衛大）    Ｅ．レーザー 主査　染川智弘  計測　　　　　　（レーザー技術総合研究所）  副査　加藤峰士(電気通信大学)  　 委員　立崎武弘（東海大学）  委員　湯本正樹  （産業技術総合研究所）  　 委員　江藤修三  （一般財団法人電力中央研究所）  Ｆ．光機能材料 主査　角屋 豊（広島大学）  デバイス 副査　吉村政志（大阪大学）  委員　高 磊（産業技術総合研究所）  委員　藤田和上  （浜松ホトニクス株式会社）  委員　宮本智之（東京工業大学） | Ｇ．光通信 主査　濱岡福太郎  （日本電信電話株式会社）  副査　谷村崇仁  （株式会社 日立製作所）  委員　三科 健（大阪大学)  委員　吉田悠来  （国立研究開発法人 情報通信研究機構）  委員　相馬大樹  （株式会社KDDI総合研究所）  委員　有川 学  （日本電気株式会社）  Ｈ．光情報 主査　仁田功一（宇都宮大学)  処理 副査　片桐崇史（富山大学）  委員　田北啓洋（群馬大学)  委員　西村隆宏（大阪大学）  委員　武山彩織（東京工業大学）  Ｉ．レーザー 主査　川内聡子  医学・生物学　　　　　　（防衛医科大学校）  副査　西舘 泉（東京農工大学）  委員　正本和人（電気通信大学）  委員　巻田修一（筑波大学）  委員　大嶋佑介（富山大学）  委員　小川恵美悠（北里大学）  シンポジウム1 主査 鈴木将之（同志社大学）  シンポジウム2 主査 宮本智之（東京工業大学）  シンポジウム3 主査 大津元一  （ドレスト光子研究起点）  シンポジウム3 主査 桒島史欣（福井工業大学）  シンポジウム4 主査 森田隆二（北海道大学）  シンポジウム5 主査 戸倉川正樹  （電気通信大学）  シンポジウム6 主査 板谷治郎（東京大学）  シンポジウム7 主査 花田修賢（弘前大学）  シンポジウム8 主査 染川智弘  （レーザー技術総合研究所）  シンポジウム9 主査 高 磊  （産業技術総合研究所）  シンポジウム10 主査 三科 健（大阪大学）  シンポジウム11 主査 川内聡子  （防衛医科大学校）  シンポジウム13 主査 石川顕一（東京大学）  ジョイントセッション  主査 山口 進 （コニカミノルタ(株)）  主査 神成文彦（慶應義塾大学） |

1. 大会全体スケジュール

ダイアグラム が含まれている画像

自動的に生成された説明

背景パターン

自動的に生成された説明



第Ⅱ章

レーザー学会学術講演会　第44回年次大会開催報告（速報）

実行委員長　奈良崎 愛子（産業技術総合研究所）

1．はじめに

レーザー学会学術講演会第44回年次大会は，2024年1月16日（火）～19日（金）に、東京都江東区青海にある東京国際交流館プラザ平成および日本科学未来館にて開催された．初日のレーザー学会創立50周年を記念した特別企業ポスターセッション，および，特別講演会につづき，例年通りのシンポジウム，ジョイントセッション，招待講演，一般講演，ポスター発表が行われ，823名のご参加及び498件の講演がなされた．ヒルトン東京お台場における懇親会も含めオンサイト開催となり，皆様の多大なご高配のお蔭で盛会のうちに終えることができた．

屋内, タイル張り, 座る, 汚い が含まれている画像

自動的に生成された説明　建物, 屋外, ストリート, フロント が含まれている画像

自動的に生成された説明　建物, 屋外, 電車, グリーン が含まれている画像

自動的に生成された説明

第44回年次大会会場

（国際交流館プラザ平成と日本科学未来館）

屋内, 人, 天井, 民衆 が含まれている画像

自動的に生成された説明

受付の様子．

2．講演会

2.1　総　論

本大会では498件の講演が行われた．その内訳は，特別企業ポスターセッション6件，特別講演5件，シンポジウム講演92件，招待講演93件，一般講演227件，ポスター発表75件であった．また本大会も，企業・団体様から「企業広告発表」として計2件の貴重なご発表をいただいた．

会議室に集まる人々

自動的に生成された説明 天井, 屋内, 建物, 座る が含まれている画像

自動的に生成された説明

学会会場の様子１. 　　　　　　　　学会会場の様子２．

2.2　50周年記念 特別企業ポスターセッション

大会初日の特別記念講演に先立ち，特別賛助をいただいている企業の方々と多くの学生・研究者が知り合う機会をさらに増やすため，新たな50年に向けた企業の最新技術或いは人材育成への取り組みを紹介いただく特別企業ポスターセッションを企画した．企業・団体様より6件のご発表をいただいた．

空港のロビーにいる人たち

自動的に生成された説明　空港のロビーにいる人たち

自動的に生成された説明

特別企業ポスターセッションの様子１．　特別企業ポスターセッションの様子２．

2.3　50周年記念特別講演会

レーザー学会創立50周年を記念する特別講演会は大会初日の13:00より東京国際交流会館プラザ平成 国際交流会議場にて5名の講師をお迎えしてプレナリー形式で開催された．講演会に先立ち，久間 和生レーザー学会会長より挨拶いただいた．その後，日本科学未来館館長，IBMフェローの浅川 智恵子先生より「科学技術とともに実現するインクルシーブな未来社会にむけて」と題した講演をいただいた．次に，東京大学教授の梶田 隆章先生より「深宇宙を探るレーザー ～レーザー干渉計型重力波望遠鏡で探る宇宙～」と題した講演をいただいた．続いて，東京工業大学栄誉教授，元学長の伊賀 健一先生より「世界を繋ぐ・観る：面発光レーザーが変える」と題した講演をいただいた．休憩をはさみ，名古屋大学教授の天野 浩先生より「窒化物系レーザダイオードの研究開発と社会実装への道のり」と題した講演を，最後に東京大学准教授の武田 俊太郎先生より「光量子コンピュータが拓く未来」と題した講演をいただいた．

テーブル, 男, 屋内, 人 が含まれている画像

自動的に生成された説明　人, 屋内, 立つ, 男 が含まれている画像

自動的に生成された説明

久間 和生会長挨拶　　　　　　　　　　　浅川 智恵子先生ご講演

スーツを着た男性

自動的に生成された説明 鏡に映った姿を撮影している男性

中程度の精度で自動的に生成された説明

梶田 隆章先生ご講演　　　　　　　　　 伊賀 健一先生先生ご講演

鏡の前に立っているスーツを着た男性

低い精度で自動的に生成された説明　男, スーツ, フロント, 衣類 が含まれている画像

自動的に生成された説明

天野 浩先生ご講演 武田 俊太郎先生ご講演

会議室に座る男性

中程度の精度で自動的に生成された説明

特別記念講演の様子

2.4　シンポジウム，ジョイントセッション

本大会では，「物質中の電子の挙動を観察するためのアト秒パルスレーザーを作り出す実験手法」がノーベル物理学賞を受賞したことを受けて急遽企画されたノーベル物理学賞記念シンポジウムを含め，複数の関連学協会の協賛の下，以下13のシンポジウム，ジョイントセッションが開催された．

1. 【応用物理学会フォトニクス分科会ジョイントシンポジウム】フォトニクスが切り拓く光量子技術

2. 光無線給電方式が魅せる次の世界 ～IoT，モビリティ，長距離，特異環境への応用と基盤技術～　＜協賛＞光無線給電検討会

3. カオスとドレスト光子で拓く複雑系超越性の光科学～無用の用から唯一無二を創る～　＜協賛＞日本応用数理学会

4. 光の時空間構造がもたらす新展開

5. ポスト次世代レーザーを夢想する

6. 超高強度レーザーとデータサイエンスが拓く実験室宇宙物理

7. イノベイティブなレーザー加工技術の社会実装

8. ライダーによる環境計測の最新動向　＜協賛＞レーザセンシング学会

9. 100GHz超級次世代光変調素子の最前線

10. 光ソリトン通信50周年記念シンポジウム ファイバ非線形性への挑戦 ～光ソリトン伝送からGNモデルまで～　＜協賛＞電子情報通信学会　光通信システム研究会

11. ニューロフォトニクス最前線

12. 日本光学会・レーザー学会ジョイントセッション： "ホットトピックス"

13. ノーベル物理学賞記念シンポジウム：アト秒科学の発展と展望

2.5　優秀論文発表賞・論文発表奨励賞

一般講演227件の中から109件の応募があった．一般講演者の若手の方々が多く応募されており，研究開発に対する地道なご努力の成果であり，これら成果は学会の活性化に繋がるものと期待できる．

2.6　ポスター発表および優秀ポスター発表賞

今回は学生会員以外の会員（正会員，賛助会員）もポスター発表を可能とした．大会3日目（38件）と4日目（37件）に分けて各日12:00～13:30に計75件の発表があった．その中で学生会員を対象とした優秀ポスター発表賞への応募は30件あり，厳正な審査の結果，3件が受賞した．受賞者は次の通りである．（敬称略，順不同）

　金井 秀太　(東京工科大学)

　近藤 陽介　(慶應義塾大学)

　馬 慶源　(電気通信大学)

優秀ポスター発表賞の受賞式は，寺川 光洋プログラム委員長ご指導の下，18日の懇親会にて行われた．

空港の荷物受け取り場にいる人たち

低い精度で自動的に生成された説明　空港にいる人たち

中程度の精度で自動的に生成された説明

ポスター発表の様子１．　　　　　　　　　　ポスター発表の様子２．

3．展示会Laser Solution 2024

Laser Solutionは年次大会と同時開催される併設展示会であり，17～19日の3日間開催された．ご出展いただきました企業様・団体様をここにご紹介し，改めまして厚く御礼申し上げます．（50音順，敬称略）

・AkiTech LEO株式会社

・株式会社アド・サイエンス

・公益財団法人天田財団

・AMPLITUDE JAPAN合同会社

・NTTアドマンステクノロジ株式会社

・MSHシステムズ株式会社

・MFオプテックス株式会社

・株式会社オキサイド

・株式会社オプトクエスト

・株式会社オプトサイエンス

・株式会社オプトライン

・Gooch & Housego Japan株式会社

・ケイエルブイ株式会社

・株式会社光学技研

・株式会社島津製作所

・スペクトラ・フィジックス株式会社／株式会社オフィールジャパン

・株式会社ティー・イー・エム

・株式会社東京インスツルメンツ

・日本デバイス株式会社

・株式会社日本レーザー

・光貿易株式会社

・フォトテクニカ株式会社

・株式会社フォトロン

・プネウム株式会社

・古河電気工業株式会社

・メンローシステムズ株式会社

・横河計測株式会社

・ルミバード・ジャパン株式会社

展示会は会場を日本科学未来館7階の2か所に設けて行った．株式会社オプトロニクス様のご厚意により，17~19日の3日間，無料の軽食（コーヒー，おにぎり）もご用意いただいた．コーヒーを片手に，多くの大会参加者の方々に展示会にご参加いただいた．

建物の前の椅子に座っている人たち

低い精度で自動的に生成された説明

展示会Laser Solution 2024の様子１．

天井, 屋内, 人, 立つ が含まれている画像

自動的に生成された説明

展示会Laser Solution 2024の様子２．

4．大会賛助

本大会へのご賛助をいただきました企業様・団体様をここにご紹介し，改めまして厚く御礼申し上げます．（50音順，敬称略）

・アイウェーヴ株式会社

・株式会社IHI

・公益財団法人天田財団

・AMPLITUDE JAPAN合同会社

・ウシオ電機株式会社

・ＭＦオプテックス株式会社

・株式会社オカモトオプティクス

・株式会社オキサイド

・株式会社オプトサイエンス

・株式会社片岡製作所

・川崎重工業株式会社

・ギガフォトン株式会社

・株式会社QDレーザ

・株式会社光学技研

・株式会社島津製作所

・シャープ福山レーザー株式会社

・スペクトラ・フィジックス株式会社／株式会社オフィールジャパン

・株式会社東芝

・日亜化学工業株式会社

・日星電気株式会社

・株式会社日本レーザー

・浜松ホトニクス株式会社

・フォトテクニカ株式会社

・古河電気工業株式会社

・三菱電機株式会社

・山本光学株式会社

・株式会社ユニタック

・横河計測株式会社

・横河商事株式会社

・レーザーテック株式会社

・株式会社レーザックス

5．懇親会

大会3日目，1月18日（木）の日程終了後，ヒルトン東京お台場 「オリオン」にて懇親会を開催した．参加者は200名であった．

司会は立崎 武弘現地実行委員会懇親会係主査が務めた．はじめに1月1日に発生した能登半島地震の犠牲者に黙祷を捧げ，乾杯は行わないかたちで会がはじめられた．歓迎挨拶を奈良崎 愛子実行委員長より，主催者挨拶を久間 和生会長よりいただいた．歓談いただくなか，普段お忙しい年次大会参加者の皆様が，少しでもゆったりとした時間をお過ごしいただけるよう，プロのミュージシャン3名にジャス演奏をお願いし， BGMとなるよう企画した．会の半ばでは，東京港醸造の銘酒・江戸開城にて鏡開きを行った．開き手は，久間 和生会長，副会長の神成 文彦副会長，兒玉 了祐副会長，山本 和久常務理事，および奈良崎 愛子実行委員長，寺川 光洋プログラム委員長で実施した．

歓談後，優秀ポスター発表賞の授賞式を行った，寺川 光洋プログラム委員長より講評をいただいた後，3名の受賞者を紹介し賞状を授与した．

懇親会の最後には，角谷 豊次期実行委員長から広島で開催される次回第45回大会のアナウンスがあり，神成 文彦副会長による閉会挨拶で幕を閉じた．

屋内, カーテン, 立つ, スーツ が含まれている画像

自動的に生成された説明　屋内, 天井, 人, 建物 が含まれている画像

自動的に生成された説明

懇親会の様子１． 懇親会の様子２．

（奈良崎 愛子実行委員長の挨拶）． （鏡割り）．

スーツを着た男性たち

自動的に生成された説明 人, 屋内, 男, 女性 が含まれている画像

自動的に生成された説明

　懇親会の様子３． 懇親会の様子４．

（優秀ポスター発表賞の授賞式）． （角谷 豊次期実行委員長の次回大会紹介）．

6．おわりに

最後に，第44回年次大会の実施にあたり．多大なご高配，ご尽力をいただきました，実行委員会，プログラム委員会，展示委員会，学会事務局の皆様に深く感謝申し上げます．次回第45回年次大会で再会できますことを願っております．

　掲載版PDF

第Ⅲ章

1. プログラム委員会報告
   1. 講演会概要

（１） シンポジウム一覧

　今回 12 件のシンポジウムと１件のジョイントセッションが企画，開催された．以下にそれぞれの開催趣旨を纏めた．

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| No | シンポジウムタイトル | 開催趣旨 |
| S01 | 【応用物理学会フォトニクス分科会ジョイントシンポジウム】フォトニクスが切り拓く光量子技術 | 量子技術に基づく情報処理や通信，計測，デバイスに関する研究は．従来技術の性能を飛躍的に発展させることが期待されており，その基盤研究は高く注目されている．そこで本シンポジウムでは，フォトニクス技術を基盤とした量子技術の最先端研究について紹介して頂き，その現状と将来について議論を行う． |
| S02 | 光給電方式が魅せる次の世界　～IoT，モビリティ，長距離，特異環境への応用と基盤技術～ ＜協賛＞光無線給電検討会 | 光ビームを遠隔から受光デバイスに照射して電力を取り出す光無線給電は，長距離・小型・電磁ノイズ無などの様々な利点があり，従来，給電が課題であったシステムへの適用や新システム創出の基盤になると期待される．最近になり注目が高まってきた本方式について，本シンポジウムでは，期待される応用と要素技術の最新動向を議論する． |
| S03 | カオスとドレスト光子で拓く複雑系超越性の光科学～無用の用から唯一無二を創る～　＜協賛＞日本応用数理学会 | カオスの持つ統計的性質が初期値によらずまた擾乱があっても速やかに収束しまた負相関を示すという特性は，カオスモンテカルロ計算の超収束性やレーザーカオスによる高安定高効率テラヘルツ波発生などの他にはない卓越した特長すなわちカオス超越性をもたらす．一方ドレスト光子も光子ブリーディングなどの他にはない卓越した機能すなわち超越性を有している．さらに，カオスとオフシェル科学の間には，例えばカオスモンテカルロ計算における統計分布と量子ウォークの示す統計分布が同じチェビシェフ分布であるなど，本質的な繋がりがあることが示唆されている．本シンポジウムでは，これらの超越性を包括して「複雑系超越性」と呼ぶこととし，これに関わる多様な理論および実験の最近の研究を紹介し，今後を展望する． |
| S04 | 光の時空間構造がもたらす新展開 | 位相・変更・周波数など光を特徴づける量が，時間的にそして空間的にコントロールされた構造を有する光は，新たな物理現象を誘導できることから，注目を集めている．本シンポジウムでは，構造を持つ光の第一人者を講師とし，その発生・計測・応用について最先端研究を紹介し，光と物質の新たな相互作用や新奇プローブとなる技術について議論する． |
| S05 | ポスト次世代レーザーを夢想する | この50年間でレーザーは飛躍的な進歩を遂げ，現代社会の基幹技術となるに至った．記念すべき年を迎えるにあたり，将来のレーザー研究のさらにその先を見据えるべく，各種レーザー装置開発の最先端を走られる先生方に現状と遥か彼方に見える景色についてご共有いただき，参加者を交えた討論を行う場として本シンポジウムを企画する．現状のロードマップの一桁上の性能実現およびそれによって可能となる未来に焦点を置き可能な限りオープンな議論を行ない，以て学会の効用を存分に味わう場としたい． |
| S06 | 超高強度レーザーとデータサイエンスが拓く実験室宇宙物理 | 宇宙では直接計測できない現象をスケールし実験室で再現する実験室宇宙物理では，これまでの大型レーザーを用いた非相対論的な現象から，超高強度レーザーを用いた相対論的な現象や量子効果との競合過程までその分野を広げてきている．本シンポジウムでは，超高強度レーザーが拓く新たな学際研究と，近年普及しつつあるデータサイエンスや情報科学的な手法を用いた研究を合わせ，今後の研究の展望を俯瞰する． |
| S07 | イノベイティブなレーザー加工技術の社会実装 | 次世代通信システムや農業，宇宙開発など，様々な分野においてレーザー加工技術が利用されており，レーザー加工機の市場は年々，世界的に拡大している．そのような背景のもと，本シンポジウムでは，「レーザー加工の社会実装」をキーワードに，アカデミックおよび産業の第一線で活躍されている講師の方々をお招きし，レーザー加工技術の原理から応用を紹介し，レーザー加工技術のこれからを議論する． |
| S08 | ライダーによる環境計測の最新動向  ＜協賛＞レーザセンシング学会 | ライダー技術は，自動車への搭載が検討されている測距技術として注目を集めているが，ライダーではレーザーと測定対象の相互作用を測定することで，温度・風・水蒸気といった気象場や，有毒ガスなどの分布を得ることも可能であり，広く環境計測に利用されている．本シンポジウムでは，ライダーによる環境計測の第一線で活躍する講師の最新技術，測定結果を紹介し，今後のライダー分野の発展について議論する． |
| S09 | 100GHz超級次世代光変調素子の最前線 | シリコン系集積光回路ではシリコン中のキャリアプラズマ分散効果を利用した光変調原理に依存しており，50GHz以上の動作帯域を得ることが難しい．素子作用長や変調効率の問題から従来のTi拡散導波路型LN変調器は適用できない．本シンポジウムでは，100GHzを超える光変調器開発にむけて，新しい光変調材料や動作原理／構造，および実用上不可欠なパッケージング技術を議論する． |
| S10 | 光ソリトン通信50周年記念シンポジウム ファイバ非線形性への挑戦 ～光ソリトン伝送からGNモデルまで～  ＜協賛＞電子情報通信学会　光通信システム研究会 | 光ファイバ通信においてKerr非線形性は共存が避けられない要素であり，非線形性を応用した伝送，非線形歪み補償などの様々な試みが行われてきた．これらに関する重要な出来事の一つとして，1973年の長谷川晃氏，F. Tappert氏による光ファイバ中の光ソリトンの発見が挙げられる．光ソリトン発見50周年を記念して，光ソリトン伝送の歴史とそこで培われた技術・理論がどのように今日の光ファイバ網で息づいているかを紹介し，今後の展望について議論する． |
| S11 | ニューロフォトニクス最前線 | 近年の脳科学・神経科学の著しい発展は，レーザー・光技術に支えられていると言って過言ではない．具体的には，小動物を対象とした神経組織の高解像顕微鏡観察，オプトジェネティクスを用いた神経活動の操作から，人を対象としたPhotobiomodulationによる神経活動制御，NIRSを用いた脳活動の非侵襲計測等までを包含する．本シンポジウムでは，このようなニューロフォトニクスの新技術や新しい切り口での基礎・応用研究に取り組む研究者により，最新の知見を紹介いただき，期待される今後の展開について議論する． |
| S12 | 日本光学会・レーザー学会ジョイントセッション  ＜協賛＞日本光学会 |  |
| S13 | ノーベル物理学賞記念シンポジウム：アト秒科学の発展と展望 | アト秒光パルスを発生する実験的手法の開発に対して2023年のノーベル物理学賞が授与される．アト秒科学に対する我が国の貢献は大きい．この分野で長年活躍されている講師の方々をお招きし，アト秒科学研究のこれまでの発展を紹介し，将来展望について議論する． |

（２） 論文発表賞

１．論文賞応募数　109件

（内訳） A 部⾨：5，B 部⾨：20，C 部⾨：13，D 部⾨：29，E 部⾨：12，F 部⾨： 17，G 部⾨：1，H 部⾨：3，I部⾨： 9

２．論文発表賞の選考方法

・講演毎に2 名もしくは３名の評価者を配し，論文発表評価票を用いて①発表内容の評価，及び②発表方法の評価を行なった．評点は審査委員の平均点とした．

・論文発表評価書は，事前にレーザー学会事務局より座長・審査員に郵送した．

３．表彰審査および表彰

・評価員はセッション開催中に評価結果を論文発表評価票に記入し，セッション終了時までに会場アルバイトに提出した．

・審査結果を集計して，現地実行委員長，プログラム委員長，プログラム副委員長が論文発表賞候補を決定，理由書等を作成した．その後，理事会に選考結果を報告し，選考結果が確定した．

・定時総会（5月末）にておいて授賞式を行う．

**論文発表評価票**

セッション：

講演番号：

申請者氏名：

|  |  |
| --- | --- |
| 登壇者確認  （申請者と登壇者が一致しているか） | □一致 　　/　　 □不一致  （不一致の場合には以下の審査は不要です．） |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価項目 | | | 評点（３を標準としておよそ上位何％以内であるか）  ５(10%) ４(20%)　３（50%） ２(70%) 　１(100%) |
| 内容の評価 | 研究の新規性 | | 優 ← ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １　　　→　劣 |
| 波及効果・有用性 | | ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １ |
| デｰタ･考察の正当性 | | ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １ |
| 発表の評価 | 発表内容の構成 | | ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １ |
| 発表方法（技能・正当性） | | ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １ |
| 質疑応答（理解度・貢献度） | | ５　　　　 ４　　　 ３ ２　　　 １ |
| 【論文発表賞への推薦】　本講演は特に優れた研究発表と認められ，同時に本研究への発表者の貢献は著しく，論文発表賞候補として強く推薦する．　　□（該当の場合✓記入） | | | |
| 講評　もしくは推薦理由 | | | |
| 評価者 氏名・所属 | | 私は評価を受ける者（連名者を含む）と利害関係になく，公平，厳正に評価を行う事をここに誓約します．  (氏名) (所属) | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 担当委員記入欄 | 内容評価： | 発表評価： | 合計点： |

(３) ポスター講演

1. ポスター発表応募数

総数：75 件

（内訳） A 部⾨：6，B 部⾨：11，C 部⾨：10，D 部⾨：18，E 部⾨：9，F 部⾨：10，G 部⾨：3，H 部⾨：4，I部⾨：4

うち表彰対象総数:30件

（内訳） A 部⾨：3，B 部⾨：4，C 部⾨：3，D 部⾨：10，E 部⾨：3，F 部⾨：4，G 部⾨：1，H 部⾨：1，I部⾨：1

２．ポスター発表運営要領

＜ポスター発表＞

・パネルの準備

★ポスターボードの寸法と数はW90㎝×H200㎝，20枚

※ポスターボード１枚に表裏で2 枚のポスターが貼れる．

・A～I部門で整理し，登録番号を割り振る．登録番号は，1月18日に表彰対象，19日に非表彰対象として分け，それぞれを通しで割り振った．

・ポスター発表者は，発表日（1月18日或いは19日）の12:00～13:30の間は必ずポスターの前で説明を行うこととした．各発表日のポスターセッション終了後，16時までにポスターを回収することとした．

＜優秀ポスター発表賞の選考＞

・コアの時間（1月18日12:00～13:30）に審査員が評価する．（審査票は別紙参照）

・1 ポスターを3人もしくは4人の審査員で評価し，その平均点を評点とした．評価基準は「発表内容」「ポスターの見栄え」「プレゼンテーション（英語可）」「質疑応答（英語可）」とした．

・審査票は，紙媒体とし，各審査員に学会開催前に郵送した．当日は，会場内に回収箱を用意した．

＜表彰審査および表彰＞

・1 月18日評価終了後，審査員は受付に会場内の回収箱に審査票を提出．審査結果を集計し，プログラム委員長・副委員長により優秀ポスター発表賞を選ぶ．（表彰対象総数の10％の3名とした）

・受賞者の発表は学会ホームページと年次⼤会ホームページ上で⾏うとともに，本⼈にメールで通知した．

・表彰状は，以前は事前に全候補者分を事務局で用意していたが，これを廃止し，当日の集計後に本部にて印刷することとした．

・表彰式は懇親会の席上で行い，受賞者は参加費無料とした．

ポスター発表賞　審査票

審査員　氏名

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ポスターNo. | タイトル  発表者（所属） | 本人  確認 | 評点 | | | | 評点計 | 推薦理由 |
| 1. ➀ | ② | ③ | 1. ④ |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

★評価前に本人確認を実施してください

★①「発表内容」，②「ポスターの見栄え」，③「プレゼンテーション（英語可）」，④「質疑応答（英語可）」の４つの項目に対して各10点満点で評価

★優秀ポスター発表賞に推薦するポスター発表がある場合は，推薦の理由を記入ください．（複数可）．

* 1. 講演件数等

今回の部門別講演件数を表1に示す．参考用に前年度実績も示す．  
また，主な機関別の講演件数を表2に，セッション別参加者数を表3に示す．

表１．講演部門別講演件数

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 開催回 | | **第44回** | | | | | | **第43回** | | | | | |
|  |  | 講演数 | | | | 論文 発表賞 応募数 | ポスター 発表賞 応募数 | 講演数 | | | | 論文 発表賞 応募数 | ポスター 発表賞 応募数 |
|  | 一般 | ﾎﾟｽﾀｰ | 招待 | 合計 | 一般 | ﾎﾟｽﾀｰ | 招待 | 合計 |
| A．レーザー 　　物理・化学 | | 18 | 6 | 16 | 40 | 5 | 3 | 15 | 2 | 13 | 30 | 5 | 1 |
| B．レーザー装置 | | 42 | 11 | 13 | 66 | 20 | 4 | 37 | 12 | 14 | 63 | 21 | 8 |
| Ｃ．高強度・高ｴﾈﾙ 　　ｷﾞｰﾚｰｻﾞｰ応用 | | 33 | 10 | 9 | 52 | 13 | 3 | 28 | 6 | 9 | 43 | 16 | 3 |
| D．レーザー　　　　　 　プロセシング | | 46 | 18 | 10 | 74 | 29 | 10 | 57 | 10 | 11 | 78 | 27 | 6 |
| E．レーザー計測 | | 30 | 9 | 8 | 47 | 12 | 3 | 26 | 12 | 11 | 49 | 8 | 8 |
| F．光機能材料・ 　　デバイス | | 23 | 10 | 8 | 41 | 17 | 4 | 20 | 8 | 6 | 34 | 15 | 5 |
| G．光通信 | | 5 | 3 | 10 | 18 | 1 | 1 | 9 | 2 | 10 | 21 | 6 | 2 |
| H．光情報処理 | | 8 | 4 | 8 | 20 | 3 | 1 | 10 | 2 | 12 | 24 | 6 | 1 |
| I．レーザー医学・ 　　生物学 | | 22 | 4 | 11 | 37 | 9 | 1 | 31 | 10 | 10 | 51 | 11 | 2 |
| X. 複合・新規領域 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | 4 | 6 | 19 | 4 | 4 |
| 一般・招待合計 | | 227 | 75 | 93 | 395 | 109 | 30 | 242 | 68 | 102 | 412 | 119 | 40 |
| 特別講演 | |  |  |  | 5 |  |  |  |  |  | 0 |  |  |
| 特別企業ポスターセッション | |  |  |  | 6 |  |  |  |  |  |  |  |  |
| シンポジウム他 | |  |  |  | 92 |  |  |  |  |  | 76 |  |  |
| 講演総数 | | **498** | | | | | | **488** | | | | | |

２．発表機関別の発表件数（登壇者所属機関，同数の場合は順不同）

図形

低い精度で自動的に生成された説明　　　図形

低い精度で自動的に生成された説明

注）以下の特別企業ポスターセッションの件数は含まず．

（株式会社オキサイド，ウシオ電機株式会社，山本光学株式会社，古河電気工業株式会社，

フォトテクニカ株式会社，ギガフォトン株式会社）

表3．セッション別参加者数

グラフ

低い精度で自動的に生成された説明

グラフ が含まれている画像

自動的に生成された説明

プログラム委員会はオンラインにて実施した．，各部門の講演割り付け，セッション構成，座長と評価者の設定はConfitのシステム上にて実施した．各部門主査を中心として，プログラム委員全員および現地実行委員が積極的に関係者への投稿勧奨を行った．その結果，非常に多くの投稿があった．

来年度への引継ぎ事項

1. 今後もプログラム委員会はオンラインで開催することを検討してもよいと考える．対面で実施した場合には異分野のプログラム委員の交流の場となり，その点は大きな利点である．しかし，オンラインで実施しても事前の準備を綿密に行っておけば，当日の意思疎通等の問題はないと感じる．プログラム委員会の日程調整をしやすい点，旅費の削減もオンライン形式で委員会を実施する点の利点と考える．(例えば，午前中の講義後に午後のオンラインプログラム委員会に出席できるなど．)
2. 論文発表賞の審査について，座長も審査員を担うことが多く，紙の審査用紙を発表者の近くで記入していると誰が審査員かわかってしまう．また，一部ではあるが手書きの文字の解読が困難な審査用紙もみられた．今後はGoogleフォーム等のオンライン形式を利用すれば，秘匿性が保たれるとともに，手書きを避けることができ，審査用紙からエクセルへの転記の手間も省くことができると考えられる．
3. 論文発表賞の評価票の５段階評価について、右を高得点とした方が直感的に理解しやすいとの意見あり．
4. 44回大会では，招待講演およびシンポジウム講演にて2件の海外の研究機関に所属する研究者のオンライン講演となった（うち1件は，当日に講演者が来日したためオンラインは中止）．原則は「現地開催，現地発表」としていたものの，部門からの強い希望があり（また，事前周知前に希望が出たことから）一部のみオンライン対応としたが，会場設備の確認と準備を含めて現地実行委員会に大きな負担となった．
5. B部門が例年以上に盛況であり，セッションによっては立ち見が多くなった．会場係に急遽追加の椅子のご対応をいただいた．会場の制限があるため難しいものの，上振れの際に備える必要がある．
6. シンポジウムによっては参加者数が少なく，会場のサイズとのミスマッチにより空席が目立つ時間帯があった．
7. 現地実行委員会報告
   1. 総務係

佐藤正健（主査）、石川善恵（副査）、小西邦昭（委員）、藏田真太郎（委員）

* + 1. 概要

総務係では、実行委員会の開催手配、保険の契約、緊急時対応の確認などの【事前準備】を行うとともに、【当日】は本部に詰めて各種現場対応を行い、【事後】には開催速報の下書きを担当し、本報告の取り纏めを実施した。会期中は急病等のトラブルが発生することなく会議を無事に終えることができた。クロークの対応は今回、広報係にお願いした。

* + 1. 実行委員会の開催

　第１回実行委員会

日時：令和5年5月30日（火）9:00～12:00

場所：オンライン会議(ZOOM)

第２回実行委員会

日時：令和5年11月5日（月）13:30～16:30

場所：日本科学未来館会議室7F　コンファレンスルーム火星＋オンライン(ZOOM)

第３回実行委員会

日時：令和6年1月15日（月）10:00～11:30

場所：オンライン会議(ZOOM)

第４回実行委員会

日時: 令和6年3月8日（金）16:30～17:40

場所: TKP東京駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム2G

添付資料：第1回実行委員会議事録、第2回実行委員会議事録、第4回実行委員会議事録

* 第3回実行委員会は直前の連絡事項のみであったため議事録無し

* + 1. 作業内容

【事前準備】

* 1. Slackの運用（小西）

委員間の連絡にSlackを導入した。費用の都合で契約者数を絞り、コアメンバー、及び、各係主査、副査がメンバーとなり、情報を共有し、さらに、各係内に展開する体制をとった。ファイルの共有にはGoogle Driveを利用した。運用については宮地副委員長と連携して実施した。詳細は別紙１に記載。

別紙１．メーリングリスト、Slack、共有フォルダーの設定

* 1. 実行委員会の案内～出欠取り纏め（佐藤）、議事録作成（石川）

第１回に先駆けて準備委員会を3/22を現地開催（出席者は各係主査まで）、第１回の委員会はオンライン開催（開催日：5/30, 開催案内：4/25（出欠確認5/19まで））、第２回は現地の下見を兼ねたハイブリッド開催（開催日：11/15, 開催案内：9/14（出欠確認11/2まで）、10/20に議事次第を送付し、各係に報告していただきたい内容（実行委員長指定）を連絡）、第３回は開催前日(1/15, 開催案内：1/5)のオンライン開催とした。年次大会後に第４回の委員会（開催：3/8, 開催案内1/31（出欠確認2/14まで）、報告書案の一次提出締め切り2/16）を開催。開催案内はすべての委員がSlackに登録できていなかったため、メールとSlackの連絡を併用。委員会の資料はGoogle Drive上にアップロードして共有し、印刷物の準備はしなかった。作成した議事録はGoogle Driveを使って共有。

* 1. 保険加入（石川）

以下の要領で東海ウイング（株）（TEL: 0463-97-4141、担当者：桐山明伸氏）で保険を手配。

10月下旬に第２回現地実行委員会に向け、東海ウイングに暫定人数150名として見積もりを依頼。契約内容は前年のものを踏襲。

12月中旬に東海ウイングに契約に必要な書類等の郵送＊を依頼し、記載後の契約書を１月上旬に東海ウイングに返送。（＊契約書にはレーザー学会の印が必要となるため、東海ウイングからの契約書郵送先はレーザー学会とし、記載や東海ウイングへの返送を学会事務局に依頼。）

大会終了後、実績確定精算のために東海ウイングに大会日毎の参加者の氏名リスト（現地実行委員会関係＋アルバイト）を送付、確定精算。



* 1. 企業見学会の検討（開催せず）（佐藤）

５０周年記念特別講演会の開催もあり、今回の企業見学会の企画は見送りとした。第２回実行委員会で承認された。

* 1. 参加者の昼食対策の検討

弁当の提供やランチマップの作成といった対応は行わなかったが、前回と同様に展示会場でオプトロニクス社よりおにぎりを配布いただいた。例年だと展示会場が開くのが初日の午後からであり、おにぎりの配布は２日目からとなっていたが、今回は初日の前日に５０周年記念特別講演会が開催され、初日の午前中からの参加者が例年より多いことが想定されたため、初日からのおにぎりの配布にご対応いただいた。

* 1. 本部機材等の手配（佐藤）

本部機材としてノートPC２台（１台は予備）とインクジェットカラープリンター１台をレンタルした。これに加えて、受付係用ノートPC３台とモバイルWIFI(受付エリアでWIFIの受信状況が悪かったため準備)、５０周年記念講演会、および、オンライン会議を実施する会場で使用する会場係用ノートPC１台をレンタルで手配した。

PCレンタル先：

アプライド株式会社　SI統括営業部　SI筑波営業所

勢登　潔　k-seto@applied-net.co.jp

第43回年次大会で利用していたアプライド株式会社の営業所がつくばにあり、そちらに連絡を取りレンタルをお願いした。10/30にホームページの問い合わせよりコンタクト、直ちに勢登氏より返信あり。11/09に初回打ち合わせの後、第２回の委員会を受けてPCの台数を決定し、12/11に発注した。1/10に一時受取～動作確認を行い、その後、回収してもらったものを1/15着でプラザ平成に発送いただいた。機材は会議終了日に梱包して返送した。

今回は非接触体温計測器の設置は行わなかったが、受付にアルコール手指洗浄液を設置した。総務係で６本のボトルを購入して準備したが、利用は少なく終了時にも残っている状態であった。



* 1. 緊急時対応の確認（佐藤）

急病や体調を崩された方がでた場合の対応について事前に会場に確認を行った。プラザ平成については、特に対応する施設がなく、急病人が出た場合には救急車を呼ぶしかないとの回答であったが、２日目以降利用する日本科学未来館には救護室があり、体調を崩された方が発生した場合には救護室で対応いただけることを確認した。

* 1. 50周年記念特別企業ポスターセッションの準備（小西）

１６日の５０周年記念講演会に先立ち、プラザ平成のホワイエで特別企業ポスターセッションが企画された。開催に関わる準備作業として、発表者への連絡手配、プラザ平成を通じて会場でのコーヒー、茶菓子の手配等を行った。詳細は別紙２参照。

　別紙２．レーザー学会50周年記念　企業特別ポスターセッションについてのまとめ

* 1. 実行委員、アルバイト等の弁当手配（石川）

10月下旬に第２回現地実行委員会に向け、下記の弁当配達・宅配デリバリのサイトを使用して業者に見積もり依頼した。内容はお茶付きで1食あたり税込み1000円以下の予算とし、容器の回収が可能な業者に依頼した。発注時期は１月上旬。

連日１０個程度のあまりが出たため、アルバイトの学生さんに持って帰ってもらった。実行委員の各日程の参加予定者数の正確な把握、および午後から参加するアルバイト学生さんへの受け取りのアナウンスが重要と思われる。

<https://www.kurumesi-bentou.com/tokyo/minatoku/takanawa/>

別途、１８日の理事会用の弁当手配も行った。（請求先は学会事務局）

* 1. 実行委員、アルバイト学生の名札の手配（石川）

名札ケースは事務局所有のものを用いた．名札のみを作成した。

下記フォーマット（名刺サイズ）で現地実行委員、事務局、アルバイトの名札を作成した。

テキスト, テーブル

自動的に生成された説明　

【当日作業】

* 1. ５０周年記念 特別企業ポスターセッション（小西）

他の実行委員と連携して特別企業ポスターセッションの会場の設営を行った。詳細は別紙参照。

* 1. 本部の設営（総務係全員）

16日は日本科学未来館が閉館であったため、プラザ平成の会議室３を本部としてレンタルしたプリンターを設置して使用した。プリント用紙は購入せず委員による持ち込みで対応。16日夜はプリンター等、基材を撤収して段ボール箱に入れ、日本科学未来館の防災センターに預かっていただいた。17日朝に日本科学未来館のコンファレンスルーム海王星に本部を設置した。机は配置された形でそのまま使用した。本部用ＰＣとプリンターを設置した。さらに、入口付近に荷物置き、弁当配布用に使用する追加の机を会場係の方に設置いただいた。本部のお茶、茶菓子を準備することを想定していたが、初日の特別企業ポスターセッションで準備した茶菓子のあまりがあり、新たにお茶、茶菓子の購入は行わなかった。

* 1. 本部の電話（事務局保有の携帯）対応（石川、佐藤）

本部に置かれた事務局保有の携帯の電話対応を行った。16日には賛助会員の方から50周年記念講演会に参加したい旨の電話があり対応。2日目以降は会場準備に関する会場係アルバイトの連絡を数件、受けたが、講演キャンセルなどの連絡は入らなかった。

* 1. 業者からの弁当の受け取りと配布、ゴミ回収対応（石川）

弁当の配達業者からの連絡を受けて所定数の弁当を受け取り、委員、アルバイトが食べられるよう手配した。また、配達に使われた段ボール箱に弁当の空き箱、お茶の缶のゴミを回収し、15時ごろの引き取りに対応。オプトロニクス社でご準備いただいたおにぎりの受け取りの補助要員も担当する予定であったが、オプトロニクス側で対応可能ということで当日の対応は無くなった。

* 1. 記録写真撮影とアルバイト係への撮影指示（藏田）

務局のデジタルカメラおよび、総務係で用意した2台のカメラを使用し、委員とアルバイト各１名の体制で記録写真の撮影を行った（懇親会は総務係委員2名で撮影）。写真係は準備した写真係の腕章（下記にフォーマット）をつけて撮影を実施した。アルバイトへのインストラクションでは第39回および第43回の速報原稿を確認し、必要な写真のイメージを共有するようにした。

会場全体の様子，受付やクロークの様子・会場内の雰囲気・会場となる建物の外観を撮影した。

記念講演では，講演者の立ち姿・会場の全体像を複数の角度から撮影した。

一般講演やシンポジウムでは講演者を含めた会場の全体像を複数の角度から撮影した。入り口の部屋名やプログラムを同時に撮影し、のセッションの写真なのかがわかるようにした。多くの人が入っている写真を撮影し、盛況な様子を伝えられるように留意した。

ポスターセッションや展示会場では会場の全体像と，多くの会話がなされている様子が入るような写真を撮影した。

懇親会では会場入り口の様子，全体の様子，各挨拶や表彰，鏡割りの様子などを撮影した。また，参加者同士が会話している様子も撮影した。

撮影した写真は、懇親会での実行委員長挨拶、開催報告（速報）の作成に利用した。写真のファイルは本部の定期的に本部のPCからGoogle Driveにアップロードした。

図形

中程度の精度で自動的に生成された説明　

* 1. ポスター発表賞の賞状の準備（佐藤）

18日昼のポスターセッションでの審査結果に基づき同日の懇親会で表彰式を行うため、本部のインクジェットプリンターを使用して専用用紙に印刷、実行委員長員の押印を行って賞状を準備した。



【事後作業】

* 1. 開催報告（速報）原稿の作成（佐藤）

会議終了後、昨年度の報告書をテンプレートとして、大会HPよりファクトデータを抽出して実行委員長名の開催速報記事の下書きを作成した（本報告書、第Ⅱ章）。講演件数については寺川プログラム委員長に、三女のリストは事務局の豊田氏にご記載いただいた。過去大会の速報記事を参考にして記録写真の撮影を行っていたため、執筆に必要な写真がほぼ揃っていた。

* 1. 報告書の取り纏め（佐藤）

開催後、各係に報告書の作成を依頼（1/23に2/16迄を目途に作成を依頼）。GoogleDrive上に各係の報告書を集約し、3/8の第４回実行委員会で申し送り事項について協議して全体を取り纏めた。

* 1. Slack有料サービスの利用停止

Slackの有料サービスは２月末に利用を停止した（宮地副委員長の対応）。

* + 1. 申し送り事項

・Slack、GoogleDriveの利用は情報共有に有効であったが、前者は委員全員が登録出来ていなかったため、メールの連絡と併用する形になり、十分に活用出来なかったところもあった。委員全員を登録出来ればより有効に活用出来たのではないか。作業の効率化のため、今後も情報ツールの活用は進めるべきであり、その分の予算の確保を考えておく必要がある。契約内容や使用方法の詳細は別紙参照。

また、タスク管理ツール(Trello)も無料で導入したが、こちらはあまり活用されなかった。

・委員会での協議に基づいて手指消毒用のアルコールを準備したが、会場にもともと設置されているものもあり、準備は不要であった。

（総務係）別紙１．メーリングリスト、Slack、共有フォルダーの設定

**メーリングリスト、Slack、共有フォルダの設定**

担当：宮地、小西

委員間のコミュニケーションを円滑にするため、**メーリングリスト**だけでなく**Slack**も使用した。また、使用したファイルを委員間で共有するため、**Googleドライブ**を使用した。

**１．メーリングリスト**

東京農工大のGoogleサービスを利用した（東京農工大・宮地が設定したので無料）。

(1) コアメンバー：　奈良崎・伊澤・宮地・山口・寺川・レーザー学会事務局

[core-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp](mailto:core-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp)

(2) 50周年記念メンバー：　コア＋山本・杉浦

[50th-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp](mailto:50th-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp)

(3) (2)+総務係など各係：　総務など各係の主査＋副査＋委員

※総務、会計、広報、受付、会場、アルバイト、懇親会の7係 + 50周年記念

[org-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp](mailto:org-lsj44am-groups@go.tuat.ac.jp)

テキスト

自動的に生成された説明**２．Slack**

Slackはファイルのやりとりも可能なチャットツールである。複数のチャンネルを作ることができ、作業ごとに内容とメンバーを分けることができる。メールだと、複数の係が並行して作業を進める場合、どの係のメールか件名や内容ではわかりにくいことに加え、どのメールへの返信かもわかりにくいため、本大会実行委員会ではSlackを導入した。以下に設定や料金などを記すが、設定時点での内容であることに注意が必要である。今後、ポリシーや料金体系が変更される可能性がある。

**(1) ワークスペースの作成**

ワークスペース名「第44回年次大会実行委員会」

プロプランで宮地が契約した。利用料金は宮地がクレジットカードで立て替え、最後に学会事務局が精算した。

**(2) チャンネルの作成**

右図の通り、各係のチャンネルを作成した。

**(3) メンバーの招待**

1つのチャンネルでのみメッセージを読み書きするならゲストアカウント（無料）でよい。ただし、複数のチャンネルのメッセージを読み書きするためにはマルチチャネルアカウント（有料、利用料金の目安1000円/月/名）が必要。マルチチャネルアカウントは計21名であり、

コア＋山本・杉浦＋各係の主査と副査（一部の係では委員も）

とした。プロプランはマルチチャネルアカウントの数で利用料金が決まるので、できるだけメンバー数を抑えた。料金の計算方法は複雑だが、おおよそ、月1000円/名の利用料金。合計で約19万円。

**(4) 契約期間**

プロプランに契約しなくても利用はできるが、90日経過したメッセージやファイルは順次見えなくなっていく。そのため、2023年3月5日にSlackのワークスペースを立ち上げ、2023年5月17日にプロプランを契約した。プロプラン契約を終了した時点で90日経過したメッセージやファイルは見えなくなるため、2024年2月29日で契約を終了した。各係にはそれまでにSlackから必要な情報を取得して報告書を書くよう、総務係が依頼した。

**(5) 使用方法**

以下、第1回実行委員会で使用した説明用資料から抜粋

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト

自動的に生成された説明

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト

自動的に生成された説明

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

コンピューターのスクリーンショット

自動的に生成された説明

**３．Googleドライブ**

委員間でファイルを共有するため、Googleで無料のアカウントを宮地が作り、共有フォルダを作った。無料のアカウントは15GBまで利用できるため、とりあえず各係には1.5GBまでの使用に抑えていただいた。ただ、共有設定は「リンクを知っている人は読み書きできる」にしたため、共有フォルダのURLを実行委員メンバー以外に漏らさないようにしていただくことを実行委員に伝えた。

2024年5月下旬に開催予定の総会まで共有フォルダ内の情報を使用する必要があるため、5月末に全てのデータをレーザー学会の事務局に移した後、アカウントを削除する。

以下、第1回実行委員会で使用した説明用資料から抜粋

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション, Web サイト

自動的に生成された説明

グラフィカル ユーザー インターフェイス, アプリケーション, テーブル, Excel

自動的に生成された説明

以上

（総務係）別紙2．レーザー学会50周年記念　企業特別ポスターセッションについてのまとめ

文責：小西

大会初日のレーザー学会50周年記念シンポジウムの前に、企業特別ポスターセッションを開催した。

豊田様を通じて奈良崎さんから企業の皆様にお送り頂いたメールは下記の通り。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

レーザー学会 50周年記念事業賛助団体、50周年記念大会特別賛助団体　御中

一般社団法人 レーザー学会

第44回年次大会実行委員長 奈良崎　愛子

拝啓

貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、レーザー学会創立50周年を記念した特別賛助を賜り厚くお礼申し上げます。

レーザー学会創立50周年記念学術講演会第44回年次大会の講演申込みを先日締め切りましたが、過去最高の講演数となっており、国内の研究者や学生が一堂に会した先端レーザー研究の活発な議論の場になると期待しております。

今回、このような国内の一線の研究者が一堂に集う場におきまして、50周年を記念した特別賛助をいただいている企業の方々と、多くの学生・研究者が知り合う機会をさらに増やしたいと思い、以下に示しました50周年記念　特別企業セッション開催のご案内を差し上げます。

日本の学会は、企業と大学（特に学生）の交流が欧米に比べ少ないように感じています。本イベントにより、多くの学生や研究者が、将来就職や共同研究で関わる企業の方々と、研究開発を通じて良く知り合う機会としてご活用いただければ、先端研究にも良いフィードバックとなると考えております。

ご検討いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

セッション名：　50周年記念　特別企業ポスターセッション

概　要：　新たな50年に向けた企業の最新技術或いは人材育成への取り組み紹介

形　式：　ポスター発表（A0サイズ1枚）

※ ポスターパネル台のみ設置、展示・カタログ配布台なし

日　時：　1月16日（火）12:00 -12:50（予定）、場所によっては午後内で時間変更あり

場　所：　東京国際交流会館プラザ平成　3階ホワイエ（予定）

申込資格：　50周年記念事業賛助団体、50周年記念大会特別賛助団体

セッション参加費：無料

申込〆切：　10月31日（火）

詳　細：

・ポスター発表のため、企業様の最新技術（あるいはその技術を搭載した製品）に的を絞った研究紹介を歓迎します。また、レーザー関連産業のこれからを牽引する人材育成などの取り組みの紹介も歓迎します。

・ポスターには発表タイトル・企業名をご記載ください。それ以外はフリーフォーマットです。例）△△レーザーの開発、○○社

・予稿提出は不要。

・多くの入場者が予想される特別講演会受付周辺での開催となるため、スペースに制約がございます。ポスター1枚の掲示スペースのみをご提供予定のためご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

・発表者は当日11:40-12:00に受付にお越しください。

・ポスターは、当日発表者がご持参ください。また、ポスターを事前に送付していただければ、実行委員会が貼付けを行うことも可能ですので、希望される方はご連絡ください。本件に関するお問い合わせは、小西実行委員（kkonishi@ipst.s.u-tokyo.ac.jp、東大）にメールにてお願いします。

本セッションに参加される場合、ご担当者様の以下の情報をメールにてレーザー学会事務局豊田宛(toyoda-y@lsj.or.jp)にお送りください。

-------------------------------

本件につきましては、今後のご連絡を下記にご案内いたします。

お名前 ：

ご所属 ：

メールアドレス ：

郵便番号/住所 ：

電話番号 ：

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

最終的に、

株式会社オキサイド

ウシオ電機株式会社

山本光学株式会社

古河電気工業株式会社

フォトテクニカ株式会社

ギガフォトン株式会社

の６社にご参加いただいた。

〇事前準備に関して

・プラザ平成下見の際に、会場とポスターボードの手配について確認した。

・プラザ平成を通して、当日のコーヒー(約150人分)と茶菓子の手配をお願いした。

・また、奈良崎さんの発案で、クリスピードーナツのミニドーナツ詰め合わせ5箱を手配した。(有楽町店に取りに行っていただいた)。

・ポスターボードに企業名を示す紙、画鋲、両面テープは当日小西が持参した。

・ポスターを事前に会場に送付されることを希望されたのは古河電工様一社のみ。

・当日の直前に、学会参加者全員にこのポスター発表があることを再度アナウンスし、参加を呼びかけた。

〇当日について

・実行委員の瀧口様(浜ホト)、吉崎様(東大)の２名に当日準備の手伝いをお願いしていたが、実際は準備にはほとんど人手はいらなかった。ポスターボードの搬出は、朝に宮地先生と小西が行った。

・発表される企業の方が到着されると、ポスター掲示は小西も手伝った。

・コーヒーやお菓子は１度にすべては並びきらないため、コーヒーポッドの入れ替えやお菓子の補充は主に瀧口様に行っていただいた。

・コーヒーと茶菓子はポスター発表後にも残っていたため、記念シンポジウムの休憩時にも提供した。

〇感想

　シンポジウム開始前の時間帯であったため、どれくらいの参加者がいるのか不安でもあったが、実際は非常に盛況であった。シンポジウム開始前の時間をネットワーキングに有効に使うことができ、非常に有意義な企画であったと思います。

空港のロビーにいる人たち

自動的に生成された説明

屋内, テーブル, 窓, 座る が含まれている画像

自動的に生成された説明　床, 屋内, 部屋, 暮らし が含まれている画像

自動的に生成された説明

* 1. 会計係

市川典男（主査）、欠端雅之（副査）、瀧口優（委員）

協力：牧野理恵（事務局）

* 概要
  + 44回大会での主な変更点
    - アルバイト代を現金手渡しから銀行振込に変更した。これはアルバイト係の多大なるご尽力により実現した。（アルバイト学生の口座情報収集、シフト表と源泉徴収額計算表の作成）
    - アルバイト学生への交通費を支給した。
    - 従来までは源泉徴収が取られない金額枠でアルバイトをしてもらったが、今回からは枠を撤廃した。9300円以上の支払総額（アルバイト代＋交通費）に対しては、源泉徴収税額が発生するため、それを差し引いて支払いを行った。
    - シンポジウム・懇親会会場では受付をしないことになったため、それに伴い会計業務も無くなる。
    - インボイス制度への対応にも留意した。
* 会計係用物品の準備
  + 事務局が送付：アルバイト用領収書、受付用電卓2つ、「アルバイト代」スタンプとスタンプ台、ホッチキス、手持ち金庫（本部用）、現金保管プラスチックケース（受付用）3つ、Airpayのシステム一式、お札のカウント機械。（できれば「交通費」スタンプも用意してもらう）
  + 会期中に用意した文具。（可能であれば事前に用意しておきたい。）：現金手渡し用茶封筒、メモ帳（立替一覧）、クリアファイル（領収書仕分け用：処理前・処理済）、クリップボード、ポストイット、ゼムクリップ（お札の管理、アルバイト代領収書管理用）
* 事前準備
  + 事務局より学会名義の貯金通帳・キャッシュカード・トークン（ワンタイムパスワード生成機）を主査宛に送付いただく。
  + 立替支払いのための小銭（1万円分）を用意する。
  + 各担当からの請求書を受領し、ゆうちょダイレクトを使ったオンライン振込処理を実施。
* 会期中全日共通業務
  + 大会本部
    - 現金の管理。現金・郵貯通帳・カード類は持ち帰って管理する。
    - 立替分の領収書を受領し、現金を手渡す。主な立替は文具、参加費コピー、雑貨で総額1万円程度。44回はシンポジウム開催に伴い、飲み物代、お菓子代、雑貨が2万円程度発生した。
    - 領収書の裏には、後々、見直した時に誰が立て替えたのかを確認できるように、立て替えしていただいた方の名前・係　を記載しもらうようにした。
    - アルバイト関連業務（後述）
    - 請求書を受領したら、未払いを防ぐためにも適宜振込処理を行う。
    - お弁当の請求書は電子ファイルで送付されてきたが、本部のプリンターを使って紙に印刷してもらった。表側に”振込済み“と記載しておくことで、沢山ある領収書・請求書の中で一見して処理したかどうかを判別できる。
    - 振込には会計係が個人所有のPCを使用した。
    - 平成プラザ、未来科学館の２会場ともに、その施設のWi-Fiを利用した。AC100Ｖも使うことができた。
  + 受付業務
    - 現金の管理は、基本的には受付係に委託し、緊急時に対応できるようにする。
    - 朝一で受付係におつりに対応できる1000円札、5000円札を渡す
    - 当日受付終了後、受付係から現金を受け取り、翌日に必要となる現金以外は預入した。
    - Airpayの対応を必要に応じてだが、受付係が対応してくれたので、実際には特に作業なし。
  + アルバイト関連業務
    - 東京都最低賃金は令和5年（2023年）10月1日から時間額1,113円になった。それを踏まえ実行委員会で協議の上、アルバイト代を1,200円/時　と決定した。
    - アルバイト代の計算（源泉徴収）と金額確定には、2名でダブルチェックする形で対応した。
    - 紙のアルバイト計算書（２枚目は領収書）へ確定金額を転載する。
    - アルバイト代振込業務を2名のダブルチェック体制で実施した。トークンを使用する振込方式のため、1件当たり約3分程度要した。並行実施可能であることは確認したが、ミスを無くすためにも2名体制で、声を出し読み上げて、一つの口座への振り込み作業を行った。
    - アルバイト係と協力して、アルバイト学生に対して、アルバイト領収書に氏名・住所・受領日を記入してもらうように依頼。
    - 計算書（領収書）は、一人のアルバイト学生につき、働いた日数分の枚数を発行する。
    - アルバイト学生は自分の働く最終日に、まとめて領収書にサインをしてもらった。印の欄があるが、印鑑は不要。
    - 今回、51名のアルバイト学生が対応してくれた。例えば３日間働いたら３枚の領収書にサインをもらい、アルバイト代はその３日間の合計金額を一括して振り込んだ。
    - 収集してくれた口座情報は正しかったが、オンラインで振込のできないケースが１件あった。その方には現金を手渡しした。
* 初日業務
  + Airpayのトレーニング。基本的には受付係に対応いただくが、緊急時の対応のために会計係もトレーニングを実施した。
  + 現地でのゆうちょダイレクトにログインし振込処理が可能であることを確認。複数PCからのゆうちょダイレクトへのログインが可能であった。実際には、ダブルチェックの意味で１台のPCを使い二人で声で読み上げ、画面を確認しながら作業を行った。
  + 現金を下ろす（千円札30枚、五千円札20枚）。途中千円札が不足したため追加で20枚両替。千円札50枚、五千円札10枚が良さそうである。事前に用意した方が当日慌てない。
  + アルバイト代・交通費用領収書の宛名書き（150枚以上）
  + シンポジウム開催のため、初日は受付業務なし。そのため、十分な準備時間が取れた。
* 二日目以降
  + 受付用現金の用意。（千円札13枚、五千円札6枚）
  + （1/17）アルバイト代源泉徴収額の自動計算、アルバイト係のご担当（田邊先生）と連携してExcelシートのアップグレードを実施した。
  + 会計担当者を受付と本部で分ける。
    - 受付側：クレジット決済の確認、現金の確認。
    - 本部側：現金の管理、アルバイト対応、立替処理、振込処理。
  + 最終日、手元にある現金を郵便局ATMを使って紙幣・硬貨ともに全て入金した。硬貨は枚数が多い場合は手数料が発生する。
* 会期後
  + 会期後に送付されてきた請求書の処理。
  + 会計報告書及び決算書の作成。
  + 最終実行委員会後に決算額を確定し、貯金通帳等を事務局に返送する。
* 収支
  + 別紙「決算書」参照
* 反省・コメント等
  + 受付関係
    - 受付係からの総括と重複する可能性があるが、初日に当日受付のカード支払い業務がパンク状態だった。可能であれば端末を増やすこと、あるいはオンラインでの申込期間を延長してカード支払いに対応せず現金だけにすること、などを検討した方がよさそう。当日現金支払いの金額をキリの良い額に割増しても良いのでは。
    - 最終日の受付時間を午前中だけにするのもありか。以降は大会本部にて処理をする。
    - 受付の現金管理・カード処理を受付係に実施していただいた。会計係としては何を把握しておけば良いかを明確にした方よい。
  + アルバイト関連
    - アルバイト代領収書を各日で作成する必要がある（源泉徴収額の確定）ため総枚数が多く（44回大会で150枚以上）、管理や会期中業務軽減のためにExcelの差し込み印刷などを利用して事前用意できないか検討した方が良い。変更分だけ当日手書き（プリンターがあれば印刷）にして、当日業務を最低限の修正と金額の確認だけにした方が良い。
    - 振込できない問題も発生したので、現金手渡しで対応することも念頭においておく。
  + アルバイト交通費の支給
    - 現金では1円単位の支払い対応は困難だが、振込であれば対応可能となる。振込手数料が他銀行で165円/件、ゆうちょ銀行で一ヶ月の振込み６件以上で100円/件が発生する。手数料総額が9,000円程度あること、アルバイタによっては交通費総額が１万円を超える人がいたことを鑑みると、交通費の支給は今後も継続していただきたい。
    - 本来交通費の全額支給は、①学会側でチケットを用意して事前に学生に渡す方法、②学生が交通費の領収書をもらって、それを学会側へ提出してもらうという２つの方法で可能となる。しかし、①は多数の様々なパターンがあり現実的ではない、②は交通機関から領収書をいただく煩雑さ、学会側もそれをチェックして現金渡しの業務は煩雑になる事が考えられた。そのため、交通費はアルバイト代と合算して支払う形とした。この場合、合計金額9,300円以上の場合、交通費に源泉徴収税が発生してしまう。
  + その他会計業務
    - 適宜通帳記入したが、30行以上で合算記帳されてしまうため、ゆうちょダイレクト側の入出金明細照会をダウンロードして利用する。
    - 実行委員会の報告書という形だけではなく、会計マニュアルという形で残しても良いのでは？
    - 過去の会計担当者から、振込業務自体の数は少ないので事務局へ協力を依頼してはという提案があったようだが、学会名義の貯金通帳を事務局から受け取った時点から返却までの期間（実行委員会（最終）終了後）は、振込業務の停滞・遅延と振込忘れを防止するためにも、会計係が責任を持って対応するべき。
    - 会計係の人数は、44回大会のよう振込業務をダブルチェックで実施すること、本部と受付が離れたことを考えると、3名は必要である。ただし、拘束時間が比較的長く、学会への参加が難しかったことを鑑みると、4名体制（振込業務責任者（主査・副査）、その他業務2名）でも良いかもしれない。
* その他
  + ５０周年記念特別企業シンポジウムの反省・コメント
    - ドーナッツの評判が良かった。
    - ホワイエに常時、案内・業者対応できる委員を配置してほしかった。
    - コーヒーの量は十分だったが、コーヒー用の紙コップが足りなかった。40個追加購入したが不足した。
    - 企業ポスターの件数とホワイエの広さが適切で、参加者の評判も良く盛況であった。

会計係　別紙.

決算書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 収入 | 備考 |
| Ⅰ. 収入の部 |  |  |
| 1. 賛助金・助成金 | 8,512,000 | 29社 |
|  |  |  |
| 2. 参加費 | 8,208,000 | 676名 |
| 正会員 事前 | 4,564,000 | 14,000円×326名 |
| 学生会員 事前 | 776,000 | 4,000円×194名 |
| 非会員 事前 | 520,000 | 20,000円×26名 |
| 学生非会員　事前 | 48,000 | 6,000円×8名 |
| 正会員 　通常 | 522,000 | 18,000円×29名 |
| 学生会員 　 通常 | 6,000 | 6,000円×1名 |
| 非会員 　通常 | 312,000 | 24,000円×13名 |
| 学生非会員　通常 | 24,000 | 8,000円×3名 |
|  |  |  |
| 当日電子決済受付分 | 918,000 | 48名 |
| 当日現金受付分 | 518,000 | 28名 |
|  |  |  |
| 3. 広告 | 792,000 | 8社 |
|  |  |  |
| 4. 展示会 | 110,000 |  |
|  |  |  |
| 5.懇親会 | 879,000 |  |
| 参加費(一般）事前 | 714,000 | 7,000円×102人 |
| 参加費(学生）事前 | 60,000 | 3,000円×20人 |
| 参加費(一般）通常 | 81,000 | 9,000円×9人 |
| 参加費(学生）通常 | 24,000 | 4,000円×6人 |
|  |  |  |
| 6.その他 | 198,018 |  |
| 口座利息 | 18 |  |
| 展示会増小間分 | 198,000 | 上記４．展示会と振り分け |
|  |  |  |
| 収入合計　（A） | 18,699,018 |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 支出 | 備考 |
| Ⅱ. 支出の部 |  |  |
| 1．会場費 | 5,883,887 |  |
| 会場借料 | 4,706,999 | 日本科学未来館 2,881,065円  ＋プラザ平成1,825,934円 |
| 機材借料 | 668,888 | 日本科学未来館 無し＋プラザ平成668,888円 |
| 会場設営 | 200,000 | 会計担当振込分（ｱｲﾗﾂｸｱｲﾁ） |
| ポスターパネル | 308,000 | ミミカサービス |
|  |  |  |
| 2．会議費 | 699,409 |  |
|  | 699,409 | 委員会交通費　会議お茶代，交流会 |
|  |  |  |
| 3．年次大会管理システム使用料 | 1,336,500 |  |
| 管理システム | 539,000 | 事務局把握分ロボットペイメント，アトラス |
| 管理システム | 797,500 | 会計担当振込分（ｱﾄﾗｽ） |
|  |  |  |
| 4．印刷費 | 91,791 |  |
| 講演案内，参加章他 | 46,475 | 事務局把握分 |
| ポスター/ チラシ | 45,316 | 事務局把握分 |
|  |  |  |
| 5．アルバイト | 973,727 | 交通費含 |
|  | 183,959 | 2024/1/16 　特別講演会用 |
|  | 289,808 | 2024/1/17 |
|  | 257,186 | 2024/1/18 |
|  | 239,679 | 2024/1/19 |
|  | 3,095 | 4日間源泉徴収額 |
|  |  |  |
| 6． 講演者交通費，謝礼 | 312,835 |  |
| 50周年記念特別講演講師謝礼 | 262,835 | 5万円×4名+源泉徴収税+交通費　事務局立替 |
|  | 50,000 | 寄付分 |
|  |  |  |
| 7． 懇親会費 | 3,951,187 |  |
| 特別懇親会　1/16開催 | 1,345,011 | 48名 |
| 通常懇親会　1/18開催 | 2,606,176 | 200名 (一般100＋学生30＋招待者70) |
|  |  |  |
| 8．通信費 | 276,389 |  |
|  | 190,492 | Slack使用料 |
|  | 85,897 | 宅急便，郵便 |
|  |  |  |
| 9．雑費 | 562,561 |  |
|  | 150,810 | PCレンタル |
|  | 8,231 | 消毒アルコール |
|  | 17,710 | 保険 |
|  | 3,799 | 文房具 |
|  | 263,910 | 弁当　お茶　お菓子（ポスタ会場含む） |
|  | 4,410 | コピー代 |
|  | 113,691 | リボン.イベント名札等 |
|  |  |  |
| 10．手数料 | 259,941 |  |
|  | 9,900 | 会計担当把握分（振込・硬貨手数料） |
|  | 250,041 | ロボットペイメント |
|  |  |  |
| 11．その他 | 0 |  |
|  |  |  |
| 12．経費 | 1,200,000 |  |
|  |  |  |
| 当期支出合計（B） | 15,458,227 |  |
|  |  |  |
| 収支差異 （C）＝　(A)―(B) | 3,050,791 |  |

* 1. 受付係

湯本正樹（主査）、村上武晴（副査）、相川脩（委員）

* + 1. 概要

受付係は、50周年記念特別講演会（1/16）と第44回年次大会（1/17-19）の受付業務を担当した。受付業務は(1)受付の設営と撤収、(2)受付用物品の準備、(3)大会期間中の受付、(4)懇親会の受付からなる。以上に関する準備作業、実施内容そして今後の参考として申し送り事項について以下に記す。

* + 1. 受付実施場所、受付時間、アルバイタ人数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 区分 | 受付場所 | 受付時間 | アルバイタ人数 |
| 50周年記念特別講演会 | 国際交流会議場入口 | 1/16（火）  11：30～14：00 | 8名 |
| 第44回年次大会 | メディアホール脇のホワイエ | 1/17（水）  8：30～16：00 | 8名 |
| 第44回年次大会 | メディアホール脇のホワイエ | 1/18（木）  8：30～16：00 | 6名 |
| 第44回年次大会 | メディアホール脇のホワイエ | 1/19（金）  8：30～15：00 | 4名 |

本大会では、会場予約の都合上、50周年記念特別講演会（1/16）と第44回年次大会（1/17-19）では、受付の設置場所を変更する必要があった。そのため、受付場所は、50周年記念特別講演会は東京国際交流館プラザ平成3階の国際交流会議場入口、また第44回年次大会は、同じく東京国際交流館プラザ平成3階のメディアホール脇のホワイエとした。

* + 1. 受付実績

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | | 1/16(火) | 1/17(水) | 1/18(木) | 1/19(金) | 合計 |
| 事前登録 | QR認証 | 40 | 92 | 110 | 32 | 274 |
| 当日申込 | 会員（一般） | ─ | 23 | 8 | 6 | 37 |
| 非会員（一般） | ─ | 17 | 7 | 5 | 29 |
| 会員（学生） | ─ | 1 | 0 | 2 | 3 |
| 非会員（学生） | ─ | 3 | 1 | 3 | 7 |
| 懇親会（一般） | ─ | 1 | 8 | ─ | 9 |
| 懇親会（学生） | ─ | 1 | 5 | ─ | 6 |
| 合計 | | 40 | 138 | 139 | 48 | 365 |

（事前参加登録者の総数：613名）

QR認証の人数は、事前登録済みの参加者が受付でQR認証をした人数であり、「参加章を印刷せずに受付でQR認証をした参加者」、「参加章を印刷したものの受付でもQR認証をした参加者」、「懇親会の参加章引換に受付でQR認証をした参加者（参加章の印刷と無関係）」のいずれかに該当。事前参加登録者（613名）から受付でQR認証を済ませた274名を差し引いた339名が、参加章を印刷し、かつ懇親会に不参加であったため受付が不要となった参加者数に相当。当日申込は、受付で電子決済（クレジットカード等）または現金にて、参加費を支払った参加者数である。

懇親会の参加者は、会場入り口で入場者をカウントしたところ、全参加者は200名（うち学生30名）であった。懇親会は引換券を持参する参加者や引換券を持っていても参加しない人もいるため、受付で事前に人数把握は難しく会場入り口でカウントした人数を正式な参加人数とする。

* + 1. 各業務について

(1) 受付の設営と撤収

事前に受付の設置場所の視察と会計係との連携を調整し、東京国際交流館プラザ平成3階での受付設置を決定。東京国際交流館プラザ平成から机や椅子、立て看板等の受付に必要な備品を無料で借りることができることを確認した。

(2) 受付用物品準備

東京国際交流館プラザ平成から借りた机や椅子以外に、受付業務に必要な物品として、ボールペン（10本）、セロテープ（3個）、ハサミ（1個）、ガムテープ（2個）、クリアファイル（5枚）、付箋紙、テーブルタップ（5本）を手配した。

(3) 大会期間中の受付

【50周年記念特別講演　1/16(月)】

9:00に東京国際交流館プラザ平成3階・国際交流会議場入口の受付設置場所に集合し、アルバイタと共に机、椅子配置、QRコードリーダー用パソコン接続・動作確認、参加章ホルダーの配置、そしてアルバイタに受付業務のインストラクションを行った。

50周年記念特別講演は、当日申込者は受け入れずに事前登録者のみの参加としたため、QR認証受付のみを11:30～14:00で実施した。14:00から国際交流会議場入口に設置した受付を撤収し、翌日から始まる第44回年次大会のための受付をメディアホール脇のホワイエに設置した。年次大会の受付では当日申込者や懇親会の受付が必要なため、当日参加申込用紙に加えて参加章や領収書も準備した。

【第44回年次大会　1/17(水)～19(金)】

　期間中、8:00に集合して、アルバイタへの当該日の業務説明と受付準備を行い、8:30から受付業務を開始した。受付業務は、QR認証による参加受付、当日申込者の大会参加費及び懇親会参加費の領収業務と、現金の会計係への引き渡し、招待者への年会参加章の引き換え及び懇親会参加章の引き換え、その他参加者からの質問対応である。受付の窓口は，事前登録（2箇所、いずれもQR認証用）、当日申込（2箇所、それぞれ現金と電子決済用の窓口）の2種類とした。招待券を提示する参加者は事前登録用の窓口で名簿管理し、招待者名簿と照合・チェックし対応した。当日申込のみ当日参加受付用紙に必要事項を記入してもらい受付を行った。17、18日は16：00に、19日は15：00に受付をクローズして片付け作業をおこなった。

* + 1. 申し送り事項及び注意点

・ 学会事務局が管理するQRコードリーダーは計3台。QRコードリーダーとノートPC間はUSB接続であり、Confitの管理者サイトにアクセスし、QRコードを読み込むことで事前登録者の受付登録が可能。QRコードを掲示できない人も、事前登録してあれば、氏名や所属で検索して受付登録することが可能。

・ Confitの管理者サイトにアクセスする必要があるのでノートPCはインターネット接続が必須。

・ QRコードリーダー（3台）は事務局が所有しているが、ノートPCはないのでレンタル等で手配する必要がある。本大会では、総務係が大会本部に設置するノートPCを準備する際に一緒に手配してもらった。

・ QRコードリーダー本体へLANケーブルを接続する必要があるが、しっかりと奥まで挿す必要あり。中途半端に挿してQRコードリーダーが起動しないと、アルバイタが困っていたことがあった。

・ 今大会から参加章を自身で印刷すれば受付を不要とした。しかし、懇親会への参加者には、別途、参加章を渡す必要があったため、参加章を印刷してきても、懇親会に参加する人は、受付に立ち寄ってもらう必要があった。自分で印刷する参加章に、懇親会参加の情報が記載できれば、参加章を印刷してきた全ての参加者の受付が不要となる。しかし、今大会はアトラス社（Confitの管理会社）に相談するに相談する時期が遅く対応が間に合わなかった。次回は、参加章への印刷内容に関する打ち合わせを、早め（４月時点）に開始することを推奨する。

・ 参加章に予稿集アクセスキーを記載してあったが、予稿集のアクセスキーである旨の記載が無かったため、何のアクセスキーなのか問い合わせがあった。また、予稿集アクセスキーが参加章の表面に印刷してあったが、裏面に印刷した方がセキュリティの関係上、適切と考える。

・ 当日参加受付用紙は、徴収金額を間違えないように、参加区分に加えて支払い金額が記載されている方が良い。

・ 招待者に事前送付されている懇親会参加章の引換券と学生用の懇親会参加章が同色（ピンク）であり、一般用の懇親会参加章（緑色）と取り違えやすいので色を変更した方がよい。

・ 受付に置かれている座長用の名札は、受付で名札を借りて返却する手間を考えると各会場に置いておくのが良い。

・ クレジットカード決済端末が1台しかなく通信速度も遅いいため、当日申込者が込み合う一番の原因となった。また、クレジットカードの種類によってはタッチ決裁で署名が必要となるケースがあり、来場者から不満が出ていた。

・ 受付業務のアルバイタへのインストラクションは煩雑なために、同じアルバイタに大会期間中は継続してもらうことが望ましい。

・ 本大会では、会場の休館日は予約可能日の都合上、受付の前日準備ができなかった。受付業務は煩雑であり、アルバイタが業務に慣れていない会期前半が一番忙しくなることから、出来る限り前日準備を実施して受付手順等をテストしておくことを推奨する。

・ 受付はセッションの最後まで開いている必要はなく、最後のセッションが始まる時間帯にはクローズして構わない。ただし、受付時間については事前にHPでアナウンスしておいた方が良い。

添付資料：受付マニュアル表

　文章マニュアルがあっても、受付の環境が整った状態で説明しない限り作業イメージを持つことは出来ないので、対応区分を表にまとめたもののみを作成し、実際の作業については現場で口頭で説明した。



* 1. 会場係

橋田 昌樹（主査）、大久保 友雅（副査）、熊谷 幸汰（委員）

* + 1. 概要

会場係では，各施設及び各部屋で用いる設備の予約，立て看板・吊り看板・施設内外への掲示物や，会場係のアルバイト用のマニュアル・配布資料・名札等の作成，ポスター用パネルの手配などの【事前準備】を行うとともに，【当日】は入退室管理業者との連携，会場誘導及び会場係のアルバイトへの指示，会場施設用PHSの管理及びトラブル時の会場施設職員との連携などを行った．特筆すべき点として，第44回年次大会は日本科学未来館と東京国際交流会館プラザ平成（以下プラザ平成）の二会場に分かれて実施したため，各施設での事前申請が必要な規則や費用のかかる項目，スタッフの業務範囲等が異なったことが挙げられる．

2024年1月16日（火）に開催された50周年記念特別講演会では，プラザ平成の国際交流会議場の1室を使用し，その後の17日（水）から19日（金）にかけての3日間は，プラザ平成では4室，日本科学未来館では8室の合計12室を使用した．

AV機器をレンタルし，持ち込みのパソコンがあればすぐに講演が可能な状況とした．2件のハイブリッドセッション（実際は海外からの参加者が現地入りしたため1件）では，ミキサーをレンタルし，セッション開始前に座長に使用方法の説明を行った（PCは総務係がレンタルした物を使用した）．また，会場掲示のための物品や，特別企業ポスターセッション・受付・クローク用に机や椅子，親子札等もレンタルした．

16日（火）の午後に，事前準備をしていた荷物の仕分けと翌日以降の掲示をプラザ平成のみ行い，それ以外の会場の準備については17日（水）の7:45開場の直後から行った．

ポスターパネルは設営から撤収までを日本科学未来館の出入り業者である有限会社三実花サービスに依頼することにより，スムーズに会場設営・撤去ができた．なお，日本科学未来館は鍵の開錠，管理，施錠についても現地を把握する同社に依頼することによりスムーズに開場，撤収ができた．

例年様々な場所に案内の掲示やポスターを出しているが，会場の内外に掲示物を置いて良い位置が極めて狭い範囲に制限されていたため，案内のポスターの作成は見送った．

講演会場でのトラブルは実行委員が連携して対応し，大きな問題なく無事に終了することができた．

* + 1. 作業内容

【事前準備】

(1) 各施設の手配（橋田）

会場として利用した日本科学未来館とプラザ平成のそれぞれの施設の利用申し込みを行った．レンタル物品については各係と連携して決定した．手配内容の概要は以下の通り．

* 各講演会場の予約：プラザ平成は合計5室，日本科学未来館は8室
* 講演会場のレイアウトの指定：会場VIについて2部屋を1部屋として利用するための手配
* AV機器のレンタル：プロジェクタ・スクリーン／ディスプレイ，HDMIケーブル，マイク，ホワイトボード，ミキサー
* 受付，クロークのための備品レンタル：机，椅子，パーティション，電源タップ，親子札
* 施設内掲示用品のレンタル：サインスタンド
* 特別企業ポスターセッション用品のレンタル：机，ポスターパネル

その他汎用品のレンタル：電源タップ，ごみ袋（※日本科学未来館はごみ袋＆回収が有料：後述）

※Laser Solution2024の物品や搬入搬出についてはオプトロニクス社から依頼してもらった

(2) 各設備での制約条件の確認（橋田）

日本科学未来館と東京国際交流会館プラザ平成とで様々な制約条件の違いがあったため，その把握と対応の検討を行った．概要は以下の通り．

* 日本科学未来館は各部屋の解錠から施錠までこちらで実施する必要あり．プラザ平成は事務室に声をかけるのみ．
* 日本科学未来館は鍵の借り受けから返却までの時間で厳格に料金を計算する．プラザ平成は細かい事は特に言わない．（実際には日本科学未来館でも15分までの超過は許容して頂いた）
* 日本科学未来館は施設外への看板設置等は不可，プラザ平成は施設に依頼すれば入り口に設置可
* 日本科学未来館は施設内で掲示用のサインボード等を置いて良い場所が厳しく制限されていた．プラザ平成は自由に設置可．
* 日本科学未来館は施設内のごみ箱を利用する際は有料のごみ袋を利用する必要あり．プラザ平成は自由にごみ箱使用可．
* 日本科学未来館はAV機器の立ち上げはこちらで実施する必要あり．プラザ平成は施設担当者が立ち上げまで実施してくれる．
* 日本科学未来館はレンタル物品の初期配置も制限されていた（具体的な配置依頼は有料）が，プラザ平成は倉庫から自由に持ち出し可．（実際には当日のトラブル対応等では日本科学未来館も倉庫から持ち出して利用させて頂いた）
* 日本科学未来館とプラザ平成のプロジェクターとコンピュータの接続はHDMI.
* 日本科学未来館の各会場は壁に貼り紙禁止.会場名（「会場VI」～「会場X」）はサインボードに，プログラムは会場横に設置された掲示板に取り付けした.
* プラザ平成の各会場は壁に貼り紙禁止.会場名（「会場I」～「会場V」）はディスプレイに，プログラムはサインボードに掲示した.
* 各会場のプロジェクターの投影サイズは4:3に統一した.
* 日本科学未来館とプラザ平成にあるWiFi速度は遅いため、接続情報を執行部とアルバイトにのみ公開し人数制限した.
* 荷物の事前送付，事後配送はプラザ平成のみ依頼可能．

(3) ポスター用パネル及び鍵管理の手配（橋田）

ポスターセッションに用いるパネルの手配を，日本科学未来館の出入り業者である有限会社三実花サービスに依頼した．パネルの数はプログラム委員会と連携して決定した．依頼した項目は以下の通り．

* ポスター用パネルのレンタル
* パネルの設置・発表番号の掲示・撤収
* 各会場入り口付近の掲示物：会場名（「会場I」～「会場X」），プログラム（A3サイズ）.
* 日本科学未来館は鍵の開錠，管理，施錠の管理（※上記の通り日本科学未来館は鍵の管理の制限が厳しかったことから，現地を把握する同社に依頼した．）

※依頼先：

有限会社　三実花サービス

MS部　細川　敬仁　様

東京都荒川区東日暮里3-26-12 ワイ・ティービル5階

TEL 03-3801-1421

info@mimica.jp

https://mimica.jp/

(4) 立て看板，吊り看板のデザイン（大久保）

プラザ平成の入り口に掲示する立て看板と，50周年記念特別講演会の会場に吊り下げた吊り看板のデザインを作成した．企業のロゴの配置については事務局と実行副委員長と連携して決定した．なお，各看板の手配はプラザ平成に直接依頼することにより，設置等の準備は不要であった．

※入稿は Illustrator 形式限定であった．

※日本科学未来館では施設の内外に看板の設置が禁じられていたため作成していない．

(5) アルバイト用配布物の作成（橋田，大久保）

アルバイトに配布するためのマニュアル類及び各会場への掲示物を作成した．作成した物の概要は以下の通り．

* 各会場でアルバイトがするべき一連の作業を示したアルバイトマニュアル
* 各会場のAV機器のマニュアル，施設担当者連絡先
* 各会場内の掲示物・提示物：「座長」「会場係」「あと〇分（ホール用）」
* 各アルバイト用名札：「会場係」「誘導係」「受付係」「クローク係」

別紙：会場係アルバイトマニュアル

【当日作業】

(1) 50周年記念特別講演会のための施設の準備：1/16（火）（橋田，大久保，熊谷）

50周年記念特別講演会の会場の準備自体は50周年記念特別講演会の会場係が担当したため，本会場係は施設の準備のみを行った．概要は以下の通り．

* プラザ平成管理室への解錠の依頼
* レンタル物品の受け取り：電源タップ，親子札，サインボード等（各係が必要とした机・椅子等は各係が倉庫から搬出）
* 吊り看板，立て看板の確認
* 翌日朝にアルバイトに配布する資料等の仕分け
* 翌日から使用するプラザ平成の会場のサインボードへの掲示

(2) 各施設の開場および施設担当者との連携：1/16(火) 10:00，1/17(水)～19(金)7:45（橋田，大久保，熊谷）

各施設の開場を依頼すると共に，各施設の担当者との連絡方法の確認，PHSの管理，鍵の管理等について連携した．概要は以下の通り．

* 日本科学未来館とプラザ平成の開場を三実花サービスに依頼．
* 各会場の施設担当者との連絡用のPHSの受け取り・管理．

(3) 会場準備：1/17（水）7:45～セッション開始前まで（橋田，大久保，熊谷）

年次大会で使用する会場の準備を行った．概要は以下の通り．

* 日本科学未来館の各会場付近に設置する掲示の配置（1/17のみ）
* 日本科学未来館の玄関は10:00から利用.利用できるまでの7:45 - 10:00は通用口から会場に入った.通用口の誘導掲示を２カ所設置.
* 各会場でのAV機器の動作確認
* 受付、クロークがプラザ平成のみに設置されていることを掲示
* 懇親会チケットはプラザ平成の受付で受け取るように掲示

(4) アルバイトへの対応：1/17(水)～19(金) （橋田，大久保，熊谷）

アルバイト係が出席学生の点呼をとった後、会場係がアルバイトへの業務内容の説明（約10分程度）および対応を行った．概要は以下の通り．

* 希望する会場の聞き取り（聞きたいセッションのある学生はその会場にアサイン）
* 各会場の掲示用プログラム（A3サイズ）
* マニュアル，名札の配布，マニュアルの概要説明．
* 事務局が用意した会場係セット、採点表、会場人数報告書の配布．
* 講演時間を知らせる呼び鈴時間を白板へ記述.

　一般講演：第一鈴１０分、第二鈴１２分（発表終了）、第三鈴１５分（質疑応答終了）

　招待講演：第一鈴2０分、第二鈴２５分（発表終了）、第三鈴３０分（質疑応答終了）

(5) オンラインセッションへの対応：1/17(水)，18(木) （大久保）

オンラインセッションを実施する部屋の準備と，座長への説明を実行副委員長とプログラム副委員長と連携して行った．概要は以下の通り．

* 総務でレンタルしたPCを設置し，ミキサーに接続．
* 事務局が用意いしたZoomのセッションに複数のデバイスで入り映像と音声の動作確認．
* 座長への使用方法の説明．※実際の運用は座長に任せた．

(6) 想定外の事態への対応：1/17(水)～19(金) （橋田，大久保，熊谷）

会場での想定外の事態に対応した．概要は以下の通り．

* 立ち見の聴講者が多く出た会場には施設の許可を取った上で倉庫から椅子を追加．
* プロジェクタが映らなくなった際に施設担当者と連携し代替ディスプレイを搬入して使用．

※会場使用時間を15分延長してもらったが，結果として時間内に終了した

* 誤った場所に駐車した車の所持者への移動の依頼．
* 忘れ物を一定期間掲示した上で，最終的には施設に預けた．※施設の決まり

(7) 閉場，荷物の搬出対応：1/17(水)～19(金) （橋田，大久保，熊谷）

各日程での閉場および最終日の荷物の搬出についての対応を行った．概要は以下の通り．

* 各会場へのPHSの返却．
* 日本科学未来館におおよその使用人数の報告．　※施設の決まり
* 三実花サービスによる日本科学未来館とプラザ平成の施錠及び鍵返却．
* 配送する荷物を運ぶための台車をプラザ平成から借りて本部に持っていき，荷物を載せてプラザ平成の事務室に配送依頼．

【事後作業】

　特になし

* + 1. 申し送り事項
* 参加人数を増やすための対策としてハイブリッド開催を検討した方がいい.ハイブリッド開催なら宿泊を伴わたいため参加者も多く見込まれる。発表はしないが講演を聞きたい参加者をターゲットにオンサイト+ハイブリッドのどちらも可能なサービスがあると良い.尚,講演者はオンサイトのみとするとか.今回も検討はしたが高速WiFiの導入で経費が100万円程度（参加人数による）必要とのことで見送った.学会をさらに発展させるためにも前向きに検討すべきと考える.時間的に平日は発表が難しい人向けの措置.
* 参加人数を増やすための対策として土日開催 検討してもいいかもしれない.土曜日開催に賛成する人の絶対数を知るためアンケートをとり情報収集するのもいいかもしれない.アンケートはハイブリッド開催時にとることが有効と考える.土曜日開催はリモートのみにするのもいいかもしれない.
* ハイブリット開催をする場合は、リモート会場係を作った方がいい.
* 二つの施設に分かれての開催は，各施設での規則や担当者という情報や判断基準の差異が大きく，その把握および対応に苦慮した．会場係としては可能な限り１施設での実施が望ましいと考える．
* 本部を日本科学未来館にのみ設置したため，プラザ平成の状況確認やトラブル対応のための移動は想像以上に労力が大きかった．複数施設で実施するのであれば，各施設に控室程度の部屋を用意した方が良いと考える．
* アルバイト学生について、年次大会初日は、日本科学未来館の玄関入口前でアルバイト係が点呼をとり,大会本部まで誘導し会場係に引き渡した.これによりスムーズに年次大会を開催することができた.
* 各会場担当をするアルバイト学生が寝坊し遅れる事案が２件あった。この事案は、人数に余裕のある受付係からアルバイトを回すことで対応した。次年度も受付係は多めに確保すると良い.
* 立看板に掲載した企業のロゴについて，企業の承諾作業の開始が遅かった.前回同様11月から12月末に事務局が承諾をとったため立看板作成と並行して承諾作業を行なった.次回、実行委員長が立看板にロゴを掲載する方針をできるだけ早急に決め、スポンサーにはレーザー学会講演会HPと立看板にロゴを掲載する承諾を得ると手間が省ける.
* 開催前日（1/15日）に各会場で使用する①事務局が用意した会場係セット②総務係が準備したコンピュータなど，段ボール３ケース分はプラザ平成に発送し預かってもらった.事前発送物は無料なので各係で確認してもらった.
* 発送物は，プラザ平成から本部までの運搬は一部会場係が担当したため人員不足になった幸い支障はなかったが,できる限り発送物担当者が運搬をして欲しい.
* 事前の荷物の発送は料金が発生しない場合は、会場係を通さず各係が責任を持って実施すべき.
* 本部はアルバイト係の学生と執行担当が１つの部屋を利用した。部屋は小さく初日は特に混雑した.2日目以降は廊下でアルバイト説明するなどにより混雑を緩和した.２部屋確保する方がベター.なお，アルバイト学生は会場係（10名），受付係（8名），クローク係（1名），写真係（1名），誘導係（2名）.
* 開催当日に，①理事会を開催する部屋の借用，②個別にWiFi利用したい依頼があった.実行委員会の場で事前に連絡すべきである.レーザー学会の業務でないものは各人が責任を持って実施して欲しい.
* 例年，年次大会に合わせレーザー研究編集委員会が開催されるが、今回開催されなかった.
* 年次大会は毎年開催されるため，各アルバイト用名札：「会場係」「受付係」「クローク係」「写真係」「誘導係」は学会事務局が準備すべき事柄.
* 50周年記念講演と年次大会の会場係がそれぞれ人員配置されたが，吊り看板，立て看板は年次大会の会場係が暗黙の了解で準備した.仕事のバランスを考え、開催日数の少ない50周年記念講演の会場係が準備するように配慮して欲しかった.
* 会場費に支払いについて、会場係が支払い手続きをすると学会事務局から伝えられたが，数百万円以上の案件は全て担当係が所属する大学（機関）の事務発注になる.学会は毎年開催されるので会場代の支払い規則を作るべき.会場支払いは学会が担当すべき案件.
* 各係の主査、副査、委員は若い人に担当してもらえるようにした方が良い.しかし,これから人口がますます減り学会開催のサポートができる人員の確保がますます難しくなると考えられるため外注を考える時期に来ているかもしれない.
* 大学以外のホテル等で開催する場合は，会場のホテル等の規則をしっかりと確認し適切に対応するべきである.
* 今回は,２会場で年次大会を実施したため,会場係の負担は２倍以上大きくなったが記念講演に相応しい年次大会になったと思う.
* 会場係の移動について、公共交通機関を利用すると会場まで2時間かかるため毎朝,始発電車に乗り通った.雪など交通トラブルを回避するため学会がホテルを準備するなどの配慮が必要.大学は2時間であれば出張手続きしても宿泊許可が出ない.実行委員会で議論すべき案件.今回の会場係は全て通勤ギリギリ圏内であったため次回はこの点をしっかり考えるべき.
* 日本科学未来館には一般客がおり、間違って７階学会講演会場に迷ってくる人が多かった。移動に使うエレベータ前に一般客が入れない旨の掲示を出すことで回避した.
* 会場アルバイトの資料はA3のクリアーホルダーで１０会場分を分別し、効率よく分配できた。クリアーホルダーは学会が準備すべき.
* 鈴時間を記述する白板について、白板は全ての会場に準備されていたが水性ペンがない会場が数カ所あった.事前確認が必要である.

（会場係）別紙１．会場係アルバイトマニュアル

テキスト

自動的に生成された説明

テキスト

自動的に生成された説明

* 1. アルバイト係

田邉孝純（主査）、高山佳久（副査）、中嶋善晶（委員）

アルバイト係の担当事項としては，下記項目が割り当てられている。

・各係で必要な学生アルバイト人数の把握と手配，人員確保

・学生アルバイトの教育と指示

・アルバイトの出勤管理，アルバイト代の支払い

・報告書の作成

以下，準備期間中と大会期間中における活動報告をまとめる。

* + 1. 事前準備

1． 準備期間中

1) 大会3か月前

現地実行委員会において，各係で必要となる学生アルバイトの人数を確認した。アルバイトの募集を始め、大まかな人数を確保した。（添付資料１）

2) 大会2～3週間前

・アルバイトの追加募集を行い、各大学（東海大学、東工大、宇都宮大、千葉工大、慶応大、東邦大、日大）から計58名（1日当たり20～27名）の学生アルバイトを確保した。

・添付資料２のメールをアルバイタへ送付し、シフトを確認した。（添付資料２）

※後述する添付資料４は直接アルバイタには見せられないので、必要か所のみコピーしてアルバイタに示した。

・Googleフォームを用いて緊急連絡先、交通費申請、給与振込先の情報を収集した。※振込先は「口座情報を確認できる画像」を入力させるようにしたが、これは非常に大事であった。（アルバイタが口座情報を結構間違うため）（添付資料３）

・アルバイト名簿を作成し，担当表・出勤簿を作成した。アルバイト名簿はgooogleスプレッドシートを用いて、シフトを入れると自動で給与計算するようにした。（添付資料４）

・アルバイトマニュアル（添付資料５）を配布した

・アルバイタ係のシフトを作製した（添付資料６）

3) 大会1週間前

・アルバイタにシフトを確認した。

* + 1. 大会期間中

1) 午前8:00に会場（本部）に集合し，出席の確認，日給の支払い・領収書の回収，　連絡事項の確認などを行った。

2) その後，各係に展開し，会場の設営を行い，業務についてもらった。終了時は，初日のみ本部にてアルバイト係にその旨報告してもらった。翌日からは各係で解散とした。

3) 添付資料４のgoogleスプレッドシートをもちいて点呼確認やその他全体管理を実施した。

* + 1. 反省点・申し送り事項

大会日時が，寒い時期と重なり，学生アルバイトの体調不良等が相次いだ。各係の先生方のご協力のおかげで，会場近郊の大学から必要な人員を確保することができた。大会期間中は大きなトラブルはなく，無事に業務遂行できた。

・今回コアとなるのは添付資料４のGoogleスプレッドシートなので、その解説をここで行う。

・セルAF69の表が各係で必要となる係の数。これがターゲット値となる。この値がAF60の表に反映され、人数がすくないと赤字でワーニングがでる。

・グレーのセルは自動計算するのでいじらない。

・2ページ目は給与計算シートとなっている。全自動なのでいじらない。P3とP4のデータを使って自動計算している。（源泉徴収は毎日個別に計算する）。2ページ目を会計係が確認するので、会計係にもアクセスを割り当てる。

* + 1. 添付資料

1) アルバイト募集のお知らせ(添付資料1)

2) アルバイタへシフト確認の連絡（添付資料２）

3) アルバイタへの連絡・緊急連絡先、振込先など(添付資料３)

4) アルバイタシフト管理・勤務管理・支払い管理（コアとなるファイル）（添付資料４）

5) アルバイトマニュアル（添付資料５）

6) アルバイト係シフト表（添付資料６）

（アルバイト係）添付資料１．アルバイト募集のお知らせ

〇〇先生、

お世話になります．電気情報工学科　田邉です．

2024年1月16日～19日に，レーザー学会の年次大会が

お台場（日本科学未来館と公共国際交流館プラザ平成）で行われます．

<https://confit.atlas.jp/guide/event/lsj44/top>

実行委員長は奈良崎先生（AIST），プログラム委員長は寺川先生（慶應）で，

小職は現地実行委員のアルバイト係の主査を仰せつかっています．

上記の期間，毎日平均して25名弱のアルバイタを，近隣大学から確保する必要が

ありまして，皆様のご協力をお願いしたく，ご連絡しました．まずは，慶應大学

からは，1/16は8名程度，その他の日は12名程度のアルバイタを今月中に確保し

たいと思います．

時給は1100円程度になる予定で，アルバイタは空き時間にレーザー学会の聴講が

できます．また，16日には企業ポスターセッション（12時から）と特別講演会

（13時から）が開催され，そこにも学生が招待されるとのことです．

恐れ入りますが，【10月末日まで】に，各研究室に展開頂きまして添付のエクセ

ルファイルに記入して返信（各研究室で取りまとめていただいても，学生から直

接私に返信いただいても構いません）お願いできますでしょうか？

全日対応できる学生を優先したいと思いますが，実際には数日だけということに

なるかと思いますので，どれか特定の日でも興味のある学生がいましたら是非手

をあげるようにお伝え下さい．

その時点で人数確保があまりできないようでしたら，後日追加でお願いすること

になりますので，その際は是非ご協力いただけますと幸いです．

以上よろしくお願いします．

田邉



（アルバイト係）添付資料２．アルバイタへシフト確認の連絡

レーザー学会2024年度年次大会

アルバイタの皆様，

（多数のためbccでお送りしています）

お世話になります．アルバイトの取りまとめをしております，慶応大学田邉です．

レーザー学会年次大会へのアルバイトの申し出ありがとうございます．

https://confit.atlas.jp/guide/event/lsj44/top

さて，現在アルバイトのシフトを作っています．確定してからご連絡差し上げよ

うと思いましたが，実はシフト表が完全に確定するまでの確認作業にまだ日にち

を要する見込みです．どうするか悩みましたが，この時点である程度は固まって

いるとおもわれるので（大きくは変更はないだろう），まずは「暫定（仮ぎめ）」

として，現時点でのシフト案を皆さんに共有いたします．

担当シフト時間の15分前に集合いただくことになります．

まず，こちらをご確認いただきまして，なにか大きな問題がありましたら，最終

確認と並行して調整しますので，ご連絡下さい．

なお時給は1200円（源泉徴収前）となります．

氏名・大学名のみとはいえ，厳密には個人情報に当たるので，リンク取り扱いは

注意下さい．

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1VbGdn85_EDpAJUYmUyddtDZ332flYWhU/edit?usp=sharing&ouid=110387277613604653192&rtpof=true&sd=true>

以上よろしくお願いします．

確定版に関しては追ってご連絡しますので，しばらくお待ち下さい．

田邉

（アルバイト係）添付資料３．アルバイタへの連絡・緊急連絡先、振込先など

レーザー学会2024年度年次大会

アルバイタの皆様，

（多数のためbccでお送りしています）

レーザー学会年次大会へのアルバイトに関して連絡します。

いくつか連絡事項がありますので、ご対応よろしくお願いします。

■シフトの確定

シフトを確定させましたので、下記リンクにて確認ください。

（黄色セルは変更箇所です）

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1VbGdn85_EDpAJUYmUyddtDZ332flYWhU/edit?usp=sharing&ouid=110387277613604653192&rtpof=true&sd=true>

（担当シフト時間の15分前に集合いただくことになります．）

※1月はインフルエンザが流行する時期となります。現在はピッタリでシフトを

組んでいますので、欠席が出ると補充が必要となります。万が一欠席が出た場合、

「担当可」となっている箇所に関しては、緊急登板をお願いする可能性がありま

す。特に「赤色セル」マークした方は、当日欠席が出たときに優先的に声掛けさ

せていただきたいと考えております。（ご自身の発表日などで割り当てておりま

すので、会場にはいらっしゃる日程だと理解しています）。頂戴している緊急連

絡先に連絡を入れますので、その際にはご対応よろしくお願いいたします。

■交通費の申請（1月10日〆切）

往復交通費を支給いたします。事前申請にてお願いします。下記フォームより、

申請してください。ご自身で学会発表がある場合、各大学から交通費の支給があ

る場合もありますので、指導教員の先生にご確認いただくなどして、多重請求と

ならないようにご注意下さい。

<https://forms.gle/5UREFW4BpcT9ivfa6>

■給料振込先（1月10日〆切）

今回アルバイト料は銀行振込で行います。アルバイト給料の振込先情報を下記フォー

ムにて収集しています。締切日までに、情報を入力して下さい。

<https://forms.gle/RJLtFNHuv9JYYsp27>

■緊急連絡先（個別連絡）

緊急連絡先として携帯電話番号を収集しています。まだ頂いていない方がいらっ

しゃいますので、このあと、別にメールにて回答をお願いします。個別にメール

を受け取った方はご対応お願いします。

■その他の連絡

アルバイトのマニュアルは現在作成中です。完成しましたらお送りします。それ

までしばらくお待ち下さい。

（アルバイト係）添付資料４．アルバイタシフト管理・勤務管理・支払い管理（コアとなるファイル）



（アルバイト係）添付資料５．アルバイトマニュアル



（アルバイト係）添付資料６．アルバイト係シフト表



* 1. 懇親会係

立崎武弘（主査）、鄭 和翊（副査）、藤川知栄美（委員）

懇親会係の担当は、懇親会に関わる業務一般である。準備作業や実施状況、今後の参考となる情報を以下に纏める。

* + 1. 参加者

　200名（事前登録150名内学生30名）

* + 1. 作業内容

（い）事前準備

(I) 会場選定

6月初旬 選定・仮予約

7月19日 契約

12月23日 飲食の人数決定・連絡

(II) 吊看板

12月12日 ホテルに発注

会場利用が17時からで、開場が17時半と準備時間が乏しいためと、

“自分らでバトンに工作すると落ちますよ”の脅し（？）があったため、ホテル手配

(III) レイアウト

標準的なレイアウトに加え、前列のテーブルには椅子を準備

(IV) 食事内容

“立食の食事量は人数の七掛け”原則を考慮し、

サラダ等のcold mealを肉・炭水化物のhot mealへ変更しボリュームを確保

(V) 人数選定

食事180名分、飲料200名分（過去の推移より見積もり）

(VI) バイト

今回は以下の準備等が不要のため、バイトは利用しなかった。

* 会場設営はホテルに丸投げ可能
* 基本的に当日受付が無いため、受付は受付係と事務局で対応いただける
* 写真撮影は総務係で対応いただける
* 会場への誘導が不要

(VII) 余興準備

酒樽： 11月下旬に打診

12月上旬に醸造所に赴き相談

空樽を借りて水を入れて鏡割る

日本酒： 6種10本を準備

“開栓した分だけ請求”にしてもらった

記念升： 12月上旬に見積もり取得

12月14日に発注（図柄・物は図1）

1月16日納品

ジャズトリオの手配：

12月初旬に空き時間確認・予約

奏者・楽器運搬の自家用車駐車はホテルに任せた（宴会費に込々）

(VIII) 送迎タクシーの手配

ホテルによると予約が難しいとのことで、当日、ホテルに滞留しているタクシーを回してもらった。ホテル発で科学未来館通用口前待機、ホテルに戻る工程のため、待ち時間分が高くつくが致し方なし。

（ろ）会期中・前日作業

事務局　豊田様に、副会長や名誉会員へ乗車するかを確認いただいた。今回、会長は公用車利用のため対象外で、学会会場から宴会場まで歩いて10分程度の距離のため、名誉会員のみが利用でありタクシーは2台で間に合った。

名誉会員を御存知の山本先生に案内を御協力いただいた。係からは藤川先生に“チケット処理”等をお願いした。

（は）当日作業

誘導： タクシーへの誘導は山本先生と藤川先生にお願い

受付： 基本的に当日受付は無しなので、受付係にて参加証の確認と、

事務局に招待者を確認していただきました。

クローク： 通常のクロークは他団体の利用と被る可能性が発生したので、

宴会場の隣を専用のクロークとして準備してもらいました

（同日昼にホテル側より提案があり、お願いした）

演奏者の器材搬入・誘導： ホテルフロント・ホテルの営業に依頼

機材確認： プロジェクタ、音声ライン、PCの動作確認

余興の準備状況確認： 鏡割り、楽器のスタンバイ

進行擦り合わせ： 会長、実行委員長、奏者、ホテルスタッフ

飲食物の確認： 食事の残量、持ち込んだ酒の状況

スライド： 開会挨拶時のスライド（奈良崎先生より頂戴いたしました）

ポスター賞表彰式のスライド（寺川先生より頂戴しました）

余興の説明：一部間に合いませんでした。

司会

（に）会期後

* ホテルへ参加人数を連絡して清算処理
* 東京港醸造へ樽・未開封品を返却して清算処理
* 記念品作製代立替の処理
  + 1. 式次第

次々ページに添付

※当日、会長の御予定、お仕事・歓談の状況を鑑みて5分程は時間を変えています

杉浦様、ご協力ありがとうございました。

* + 1. 経費

（ほ）ホテル宴会 \2,484,686-

飲食 \1,991,286-

会場代 \124,300-（税サ別）

音響照明等 \172,700-（税サ別）

ピアノレンタル \110,000-（税サ別）

タクシー送迎 \8,300-

（へ）ジャズトリオ \60,000- = \20,000-/人×3名（税・経費込）

（と）鏡割り 樽などレンタル \16,500（税込）-

日本酒6種8本 \31,900-（税込）

（ち）50周年記念五勺升 \61,490-（税込）

* + 1. 申し送り事項

担当（ホテルと打ち合わせをしてきた者）と司会は分ける方が楽というか安全である。宴会中にホテルの担当と話すこともある。また、ホテルとの打ち合わせに毎回全員が出るのは無理だし情報共有も煩雑のため、責任者以外が司会をすると楽である。あくまで“楽”というレベル

案：宴会場の決定と前後するが、宴会場と近い所に職場・住居のある方をアサインできないか。東海大のように授業が多い大学や出歩くことが困難な教職員には不向き（ラッキーなことに立崎は横浜在住なので今回・前回は近くて楽でしたけど）。

* + 1. 参考

（り）ヒルトン東京お台場　御担当様：

営業部　課長　宮崎美紀様（miki.miyazaki@hilton-odaiba.com）、

営業部　課長代理　多田真紀子様（makiko.tada@hilton-odaiba.com）

料理飲料部　宴会サービス：小日向（おびなた）様

16日の会もヒルトンの開催なので幾分は優遇してくれました

（ね）竹内直子： ピアニスト（http://naoko-takeuchi.com/）

（る）東京港醸造： 酒樽・日本酒の出処（http://tokyoportbrewery.wkmty.com/）

何度か訪問して社長・杜氏と話ができるようになって、

「利用分で精算」する方法を編み出しました。

（お）会場選定の経過：サービスと価格に相関が無いことは発見

日航： 空が無い

ワシントンホテル： ~3M\@180名

ヒルトン： ~2.2M\@200名

ケータリング 200人級は難&頼みの綱が休業中

デリ ハイリスク・ローリターンのため却下

* + 1. 雑感

担当とよく話をする事を心掛けました。お互いに嫌な思いと損はしたくないので。

ホテルには事情を理解してもらえて事後精算にしてくれました

**レーザー学会 学術講演会 第44回年次大会 懇親会　式次第**

日時： 2024年1月18日（木）　18時00分～20時00分

会場： ヒルトン東京お台場　1F「オリオン」

司会： 立崎（東海大）

18時00分

黙　　祷

開会挨拶 第44回年次大会 実行委員長

産業技術総合研究所　総括研究主幹・グループ長 奈良崎 愛子 先生

挨　　拶 レーザー学会　会長

国立研究開発法人　農業食品産業技術総合研究機構　理事長

久間 和生 様

歓　　談

18時30分

50周年記念鏡割り

久間 和生 様 レーザー学会　会長

神成 文彦 先生 レーザー学会　副会長・慶應義塾大学　教授

兒玉 了祐 先生 レーザー学会　副会長・大阪大学　教授

山本 和久 先生 レーザー学会　常務理事・大阪大学　教授

奈良崎 愛子 先生 第44回年次大会　実行委員長

寺川 光洋 先生 第44回年次大会　プログラム委員長

18時40分～19時00分

余　　興 ジャズトリオミニライブ

19時20分

ポスター賞 表彰式 挨拶・講評 プログラム委員長 寺川 光洋 先生

授与者 実行委員長 奈良崎 愛子 先生

受賞者2～4名

授与後、受賞者全員と奈良崎先生、寺川先生で記念撮影

19時50分

次回第45回年次大会　開催予定紹介

第45回年次大会　実行委員長・広島大学　教授 角屋 豊 先生

閉会挨拶 レーザー学会　副会長・慶應義塾大学　名誉教授 神成 文彦 先生

付録1：準備

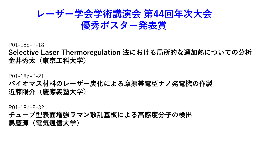
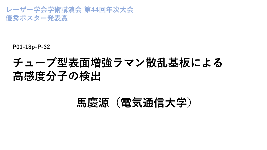
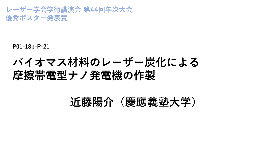
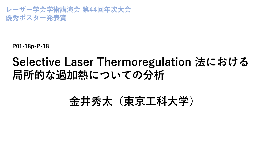
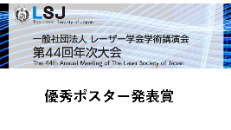


図3　ポスター賞表彰式で利用したスライド　寺川先生作



図2　開会挨拶時のスライド　奈良崎先生作で御礼と報告



図1　学会創立50周年記念升　(a) デザイン　解像度の関係で少々デフォルメしてます　(b) 作製された升　文字はつぶれているが雰囲気は「可」

付録2：報告

図5　余興の紹介スライド（お酒版）



図4　懇親会記録写真　(a) 会場雰囲気・吊看板、(b) ジャズトリオ（準備中）、(c) 鏡割り、(d) 50周年記念升・日本酒ブース、(e) ポスター賞表彰式

* 1. 広報係

溝尻瑞枝（主査）、吉田剛（副査）、吉﨑れいな（委員）

広報係では、ポスター、チラシ等のデザイン、および、年次大会ホームページの加筆、修正 (プログラムテーブルを含む)をおこなった。

* + 1. ポスター、チラシ等のデザインの作成について
* デザインについては広報が担当した。チラシ配布前（2023/4/5）に、デザインを決定し、事務局に提出した。
* 支援依頼チラシのお台場にちなんだ写真は，（交財）東京観光財団の写真を利用した．ポスターの写真は，第1回実行委員会開催時にお台場を訪れた際，広報担当者が撮影し，利用した．利用許可取得手続き不要で楽であった．ただし，科学未来館の外観は広報担当で撮影しても利用不可であり（科学未来館主催の催しでない限り使用不可とのこと），レインボーブリッジの写真とした．
* デザインの作成はパワーポイントを使用した。（「広報関係フォルダ」参照）
* ポスター掲載情報
  + 学会名・会期・会場名
  + 50周年記念ロゴ
  + 申し込み、予稿提出期限
  + シンポジウムテーマ
  + 併設展示会LaserSolution2024ロゴ
  + 主催・問い合わせ先：レーザー学会
* 必要部数など
  + ポスター：A2 サイズ300 部．封入用折加工あり

7/25-27 賛助会員、理事、支部長、実行委員、プログラム委員、編集委員、研究委員に送付

* + チラシ（支援依頼）：A4 サイズ200枚

4/20,21 OPIC2023

* + チラシ（開催案内）：A4サイズ500枚

7/25-27 賛助会員、理事、支部長、実行委員、プログラム委員、編集委員、研究委員に送付

8/18-20光・レーザー関西2023、11/7-9光とレーザーの科学技術フェア2023にて配布

* + 1. 年次大会ウェッブサイトついて
* Confitのシステムを用いた。事務局からの依頼に応じて必要情報を追記した。

※依頼から2日以内を目安に作業を実施

〇50周年記念事業賛助　8社

オキサイド(5/18)、ウシオ電機(5/18)、オプトサイエンス(5/18)、三菱電機(5/23)、オカモトオプティクス(5/31)、天田財団(6/1)、日本レーザー(6/19)、山本光学(8/19)

〇50周年記念大会特別賛助団体　8社

古河電工(6/1)、天田財団(6/1)、レーザーテック(7/18)、MFオプテックス株式会社(8/29)、フォトテクニカ(8/31)、光学技研(9/8)、横河計測(9/13)、ギガフォトン(11/1)

〇年次大会賛助団体　17社（43th: 17社、42th: 18社、41th: 17社、40th: 21社、39th: 21社、38th: 45社）

〇賛助団体　17社（42th: 18社、41th: 17社、40th: 21社、39th: 21社、38th: 45社）

AMPLITUDE JAPAN合同会社(5/23)、日星電気(5/23)、ユニタック(5/25)、日亜化学(5/25)、片岡製作所(5/30)、レーザックス(5/31)、島津製作所(6/5)、東芝(6/19)、アイウェーブ(6/30)、シャープ福山レーザー(7/7)、IHI(8/29)、スペクトラフィジックス(9/26)、三菱電機(10/2)、横河商事(10/6)、浜松ホトニクス(10/25)、QDレーザ(11/16)、川崎重工(11/29)

〇広告　6社（43rd: 7社、42nd: 8社、41st: 6社、40th: 10社、39th: 12社、38th: 23社）

ツーシックスジャパン・コヒレント・ジャパン(8/4)、イーオーアール(8/4)、三菱電機(10/2)、ソーラボジャパン(10/27)、オプテックス(10/27)、シグマ光機(11/1)

* 追記事項

⮚ 実行委員長からのご挨拶、御礼文掲載（発表件数、参加者数の掲載含む）

⮚ 懇親会会場アクセスを掲載した．

⮚ 参加方法（QRコード提示や事前の記入用紙の掲示）提示の検証と掲載

⮚ 論文賞の情報掲載(事務局で対応)

* 備考

⮚ X（旧ツイッター）は閲覧が不便なため，作成しなかった．

* + 1. その他

離れた2会場があるため，HPに会場案内図を掲載した．科学未来館の開場時間により，時間外入口を利用する旨も掲載した．

* + 1. 申し送り事項

広報が兼任したクローク担当として，クロークの位置が受付より入口近くにあり，受付と間違う方が大勢いた．クローク，受付の配置は，動線をよく考える必要がある．

* 1. 展示会

例年、展示会についてはオプトロニクス社に全てお任せしており、実行委員会で引き継ぐということをしておらず、展示会係の報告は報告書に掲載されていなかった。今回、オプトロニクス社の愛知様より第４回の実行委員会に対して下記の報告をいただいたので記載しておく。

■レーザーソリューション2024報告

2024年1月17日（水）-19日（金）

日本科学未来館（7F　ロビー、木星ルーム）

＜出展社数＞

28社　※昨年の名古屋開催は23社

＜出展社の声＞

・展示会場は1箇所にして欲しかった。

・ロビーでもコーヒーサービスをして欲しかった。

　※おにぎりは途中から配布したが、コーヒーはロビーの床が絨毯だったため、

　　養生が必要になったが、セットがなかったことと、機材、人員の関係でで

　　きなかった。

＜おにぎり配布＞

・200個／日（3日間）

　※初日は13時過ぎても40個ほど残っていたが、2日目以降は

　　口コミもあったのか13時前には無くなった。

＜コーヒーサービス＞

・約800杯（3日間）

　※昨年の名古屋開催と同等

* 1. 事務局

レーザー学会事務局

　　　　　　　　　　　　　　　事務局　実施内容

* + 1. 大会運営支援

(1) 大会委員委嘱作業

(2) 年次大会への協力依頼状（大会賛助，広告，企業広告発表，出展による支援）発送

(3) 参加・講演登録管理システム管理

　　　　 ・Confit契約

　　　　 ・依頼講演者のアカウント作成，講演登録依頼

　　　　 ・講演者，参加者への各種通知（予稿原稿作成依頼・督促，講演者への参加登録依頼・

督促，講演番号通知，参加費決済督促，予稿原稿閲覧PW通知など）

　　　　 ・プログラム編集委員の登録

　　　　 ・大会プログラム，出展情報の公開

(4) 開催概要の会誌掲載

(5) 座長，評価者への依頼，担当セッション情報の通知，予稿原稿・マニュアル等の送付

* + 1. 現地準備（大会前～大会前日（午後））

(1) 会計係への引継ぎ（第2回現地実行委員会にて会計係に通帳一式を引き渡し）

引継ぎまでの賛助金，企業広告，企業広告発表，参加費の入金確認

(2) 事務局準備品の搬入確認と点検

(3) 事務局準備品の各係への配付

・会場係：会場用品セット（レーザーポインタｰ，ストップウォッチ，ベル等），会場用品等

・受付係：大会参加章（予稿パスワード記載），懇親会参加章，領収書，

招待者（学会賛助会員・大会賛助団体・名誉会員・特別講演者）名簿

・その他

(4) 新規入会受付の設営

* + 1. 大会当日作業

(1) 受付係，会計係の補助

(2) 入会希望者に対する入会手続事務

(3) 新規入会の勧誘

(4) 論文発表賞採点表，進行状況報告書，「レーザー研究」オリジナル論文候補推薦の

回収・確認

・会場アルバイトが担当講演会場にて回収し，大会本部に持参し，受入箱に入れる．

(5) 優秀ポスター発表賞採点表の回収、確認(1/18ポスターセッション)

・採点表回収箱の設置．

(6) 理事会（1/18昼）の準備・実施

* + 1. 大会報告書作成

(1) 事務局担当分作成

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上

　　　第４４回年次大会　事務局準備品リスト

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **品　　名** | | **内　訳　・　備　考** |
| **総務** | カメラ | デジカメ：１台　　（総務係：別途１台（＋下記付属品一式）を準備頂く）  附属品一式（メモリカード，等） |
| 各種名簿 | 学会賛助会員，大会賛助団体，名誉会員，座長，評価者名簿 |
| 名札ケース | 実行委員（名札自体は総務係に準備頂く），事務局  アルバイト（名札自体は総務係に準備頂く） |
| タクシーチケット | 3枚+α（使用せず） |
| **受付** | 参加章・領収書 | 大会参加章（予稿パスワード記載），懇親会参加章  大会領収書（当日）：正会員・賛助会員，学生会員，一般非会員，学生非会員  懇親会領収書（当日）：一般，学生  参加章ホルダー |
| 受付用名簿 | 学会賛助会員，大会賛助団体，名誉会員，特別講演者の名簿 |
| 備品 | お金ケース：10個，　現金保管庫 |
| 座長・評価者用 | 座長名札（評価者は不要），論文発表採点用紙予備：100枚 |
| 掲示・PR資料  …ホワイトボード・  受付資料台展示 | 年次大会ポスター：10部  セッション・座長表：A3版5枚  会場平面図：A3版10枚，A4版10枚 |
| 資料用封筒 | A4版封筒：20部，布袋：50個 |
| QRコードリーダー | 事前登録受付用：3台（PCは受付係にて手配頂く） |
| リボン（特別講演会） | 花リボン…白花(会長，実行委員長)：2個＋予備１  花リボン…赤花(特別講演者)：5個＋予備１ |
| **会場** | 講演会場用品セット | レーザーポインタ：赤　9個（会場数）+α  ストップウオッチ，べル：9個（会場数）+α  ポストイット大，太マジックペン（黒，赤），セロテープ：9個（会場数）+α  座長・講演者へのお知らせ，会場用ソフトケース：9個（会場数） |
| ポスター会場用品 | 優秀ポスター発表賞採点表回収BOX　3個  優秀ポスター発表賞　受賞花マーク：3個（応募件数の10%強）+α |
| 会場係アルバイト用資料 | 講演進行状況報告書：セッション数（100枚）+α  論文発表賞採点表・講演進行状況報告書・オリジナル論文推薦の受入箱(3個)，提出チェック用紙（1部+予備1） |
| 特別講演会用 | 特別講演会プログラム：400部，講演者・会長・招待者席表示  レーザーポインタ：緑　1個 |
| **会計** | 電卓，現金カウンタ  封筒，領収書  通帳  クレジット決済用機器 | 電卓：3台，現金カウンタ：１台  長3封筒（アルバイト代用）：100部＋領収書→会計係へ後日送付予定  通帳一式→会計係へ（@第2回現地実行委員会11/15）  クレジット決済用機器：一式 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **懇親会** | カウンター | 2個（懇親会参加者計数用） |
| 表彰 | 優秀ポスター発表賞表彰用原紙：3枚（応募件数の10%強）+α，学会印  （プログラム委員会に現地にて印刷・押印して頂く） |
| リボン | 花リボン…赤大花(ポスター発表賞受賞者) ：3個（応募件数の10%強）+α  花リボン…白大花(会長，実行委員長)：2個＋予備１ |
| **事務局** | 入会受付用品 | 受付テーブル表示，文具，入会案内冊子（100部），入会案内ビラ |
| 学会説明用資料 | 会誌見本：51.1～51.12号各１冊（含：購入申込書）  研究会報告：1年分　　　　　　　　　　　※会誌・研究会報告展示用机　1台 |
| 理事会関連 | 弁当手配（→総務係に依頼） |